

# 農工通信

Tokyo University of Agriculture and Technology  
Alumni Association

No.107

2026.9



一般社団法人

東京農工大学同窓会

<https://tuat-dousoukai.org/>

TUAT Tokyo University of  
Agriculture and  
Technology

|                                     |                       |
|-------------------------------------|-----------------------|
| 同窓会長・理事長挨拶 .....                    | 1                     |
| 学長就任挨拶 .....                        | 2                     |
| 一般社団法人東京農工大学同窓会第8回定時総会 .....        | 3                     |
| 同窓会役員等体制と部会長・支部長及び連絡員表 .....        | 6                     |
| 令和7年度 同窓会学生援助事業報告 .....             | 7                     |
| 部会・支部・同好会・クラス会だより .....             | 8                     |
| 叙勲・褒賞受章にあたり .....                   | 22                    |
| 松永 是、百鬼 史訓、川田 明宏、岩田 勝男、有江 力         |                       |
| 退職にあたり .....                        | 25                    |
| 有江 力、伊豆田 猛、田中 あかね、福原 敏行、藤田 欣也、本郷 智子 |                       |
| 同窓生からの寄稿文                           |                       |
| わがクラスの人々 (その2)                      |                       |
| 旅に出よう                               |                       |
| 「報恩感謝」                              |                       |
| 東京農工大学を卒業して55年                      |                       |
| 「地域のボランティア活動の話」                     |                       |
| 母校への感謝と回想                           |                       |
| 「ななじゅう会ー2」(前田君(獣医S48)が参加)           |                       |
| S53卒・生産工 卒業旅行の思い出とin新潟              |                       |
| 同行二人                                |                       |
| ボッチャ、モルックを楽しむ                       |                       |
| チリの首都サンチャゴ近郊の国立公園を訪ねて～都市住民に森林浴～     |                       |
| 65歳 独学で「一級建築士」合格                    |                       |
| バンコクの隠れた名所!? 国立土壌博物館 (Soil Museum)  |                       |
| 本陣の思い出                              |                       |
| 農工大での学びと今～土壌から始まり地球環境保全からICTまで～     |                       |
| 池田 和彰                               | 農学S39 .....           |
| 服部 武弘                               | 農工S39 .....           |
| 前之園 孝光                              | 獣医S44 .....           |
| 花輪 正明                               | 製糸S46 .....           |
| 三木 茂                                | 製糸S46 .....           |
| アナン・ラックパイトゥーン                       | 機械S47 .....           |
| 原 啓志                                | 林産S48 .....           |
| 宮里 圭一                               | 農工S53 .....           |
| 奥山 武彦                               | 農工S54 .....           |
| 須藤 晃                                | 植防S58 .....           |
| 近藤 豊                                | 林学S58 .....           |
| 西郷 昌高                               | 機械S59 .....           |
| 真鍋 和裕                               | 植防S63 .....           |
| 岡本 隆宏                               | 環保H3 .....            |
| 光山 拓実                               | 生産H25 .....           |
| キャンパス便り                             |                       |
| TUAT Formula ペダル・ブレーキ班              |                       |
| TUAT 援農隊始動!                         |                       |
| 富岡 優太                               | 機械システム工学科3年 .....     |
| 不破 美幸                               | 農学部地域生態システム学科3年 ..... |
| 掲示板 .....                           | 37                    |
| 広告 .....                            | 39                    |
| 事務局だより .....                        | 42                    |



### 「横浜の守護神」 福岡 紀幸 (機械S42)

表紙の絵

早朝の氷川丸は山下公園の前にゆったりと停泊しています。  
如何に潮風薫る作品にまよめようかと構図に四苦八苦。思い切って、船体の一部をカットして、氷川丸と隣接する桟橋と灯台を対比させた、シンプルな構図とし、手前の水面を大胆に描きました。  
結果的には潮風薫る爽やかな出色の作品となりました。

Toshiro  
Otomo会長  
大伴 秀郎  
(農学S51)

## 会長挨拶

同窓会会長を拝命してからこの間、学部・学科・研究室・卒業年度・業種・クラブごとの同窓会のお話を伺い、実際に参加させていただきました。

想像していた通り、同窓会の活動は、この「農工通信」による連絡や催し物の紹介、就職へのアドバイスなど、非常に活発です。年間を通して定期的に集まり、現役の学生を交えた交流会や勉強会を開催しているところもあれば、同窓会誌を発行しているところ、企業とのつながりを築いているところ、さらには卒業生の就職を斡旋しているところなど、その活動内容は実に多岐にわたります。このような同窓会活動を支えている卒業生、先生方、そして同窓会事務局の原動力は、やはり学び舎である農工大学、そしてお世話になった先生方への感謝と愛着、さらに同じ時期に勉強やスポーツ、遊びを通して共に時間を過ごした同級生への思いであろうと思います。こうして「農工通信」をお読みくださっている皆さまには、懐かしさも含めて大学や先生、同窓生に対する思い入れがあるのではないのでしょうか。また、卒業生の中には各界で活躍されている方も多くいらっしゃいます。最前線で高い現場力をもって仕事を動かしていく農工大卒業生。器用で世渡りが上手とは言えないかもしれませんが、現場になくてはならない存在となっている、そのような卒業生の姿を見るたびに、この大学の卒業生であって良かった、そして身に余る大役ではありますが、この同窓会の会長を務めさせていただいていることに、あらためて胸を張り、誇りを覚えています。

同窓生の皆さまには、日頃より東京農工大学同窓会の活動にご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年度は多くの支部で総会が開催され、同窓会本部から延べ24名の委員を派遣いたしました。若手同窓生の参加が増えている支部、隣県との交流を進めている支部、新たなイベントに取り組まれている支部など、それぞれの地域で同窓会活性化への取り組みが進められており、大変心強く感じております。

本年度より、中村学長の新体制がスタートいたしました。中村学長は、「農学と工学の真の共創」による持続可能社会の実現を目指すとともに、学生・教職員一人ひとりがやりがいを持って挑戦できる、世界唯一の研究大学を目指すというビジョンを掲げられております。同窓会としても、学生の挑戦を支援し、大学と社会をつなぐ架け橋としての役割を果たしてまいりたいと考えております。

今後も、同窓生の皆さまにとって身近で魅力ある同窓会を目指し、運営委員・事務局一同、力を合わせて活動を進めてまいります。引き続き、変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

理事長  
挨拶理事長  
野口 恵一  
(材料H1)Keiichi  
Noguchi

同窓生の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。この度、歴史ある東京農工大学の学長を拝命いたしました。

## 「農学」と「工学」の 真の共創を加速させる

本学は創立以来、農学と工学という二つの学問領域を両輪として、社会の課題解決に挑み続けてまいりました。現在、私たちは地球規模の環境変化や資源枯渇という大きな転換点に立っています。この複雑な課題を解決し、持続可能な未来を築くための鍵は、本学が誇る両分野の真の「共創」に他なりません。

## 「自然資本」を核とする 唯一無二の研究大学へ

私が今、最も注力すべきと考えているのは「自然資本(Natural Capital)」という概念です。これは、水、土、大気、そして多様な生物といった自然の恵みを、単に消費する資源ではなく、人類の生存と経済を支え、価値を生み出す大切な「資本」として捉える考え方です。農学が持つ生命や環境への深い洞察と、工学が持つ革新的な社会実装技術を駆使し、自然資本の価値を科学的に評価し、守り、循環させる。この教育研究において、世界に類を見ない「唯一無二の研究大

学」となることを目指してまいります。

## 「責務」から「やりがい」へ、 個性が輝くキャンパスを

大学は、単なる知識の伝達場所ではなく、新たな価値を共創するイノベーションの拠点であると考えます。私は、学生や教職員の一人ひとりに、自らの研究や業務を単なる「義務」や「責務」として捉えてほくはないと考えています。「やらなければならない」という重圧ではなく、「やりたい」「面白い」という純粋な「やりがい」を原動力にしてほしいのです。

世界には、専門性もバックグラウンドも異なる多様な個人が存在します。それぞれが自身の「個性」に誇りを持ち、主体的に挑戦できる環境を整えること。異質な個性がぶつかり合い、認め合う中でこそ、本物の「共創」が輝きを放ちます。

同窓生の皆様がそれぞれの分野で蒔き、育ててこられた成果は、本学の大きな財産です。その伝統を大切にしながら、私たちは次世代のための「未来への種」をともに育てまいります。フラッグシップ大学としての変革を成し遂げるため、同窓生の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

# 未来への種をともに育む

——「自然資本」を基軸とした農工共創の新たなステージへ

東京農工大学長  
中村 暢文  
Nobuhumi Nakamura



学 長 就 任 の  
ご 挨 拶



# 同窓会 第8回定時総会報告

## 開催概要

日時：令和8年6月20日（土） 13:00～14:10

場所：府中キャンパス 農学部講堂

出席状況：出席者95名、書面決議書提出者20名  
（合計115名）



第8回定時総会が6月20日（土）、府中キャンパス農学部講堂において開催されました。本総会では、欠席者に対しても事前に書面による決議書の提出を可能とする形で運営されました。

議事に先立ち、大伴秀郎同窓会長からの挨拶に続き、来賓として本年4月に就任された中村暢文学長より大学の最新動向について興味深いご講演をいただきました。その後、田中副理事長より定足数を満たしている旨の報告があり、議事に入りました。

## 審議事項

### 第1号議案：議事録署名人選出の件

審議の結果、伊豆田猛氏（環保S59）および若松弘起氏（応生H25）が議事録署名人に選任されました。

### 第2号議案：理事選任の件

退任した大川理事の後任として、野村義宏氏（農

化S59）の選任が承認されました。なお、任期は大川氏の残任期間である令和9年6月の定時総会終結時までとなります。

### 第3号議案：名誉会長、名誉顧問および顧問の推挙の件

以下の通り、名誉会長、名誉顧問および顧問の推挙が承認されました。

名誉会長：五味 勝（電子S54）前同窓会長

名誉顧問：千葉一裕（農化S56）前学長

顧問：本山芳裕（林学S48）前林学会会長、  
前同窓会理事

顧問：河野 読（獣医S45）前山形県支部長、  
前同窓会理事

令和7年度 貸借対照表 (要旨) 令和8年3月31日現在

| 科 目       | 本年度末 (円)    | 前年度末 (円)    | 増 減 (円)     |
|-----------|-------------|-------------|-------------|
| 資産の部      |             |             |             |
| (流動資産)    |             |             |             |
| 現金預金      | 36,218,976  | 38,517,313  | △ 2,298,337 |
| その他流動資産   | 4,110       | 12,670      | △ 8,560     |
| (固定資産)    |             |             |             |
| 基本財産      | 330,000,000 | 330,000,000 | 0           |
| 特定資産      | 108,319,254 | 113,774,563 | △ 5,455,309 |
| その他固定資産   | 1,335,260   | 1,072,260   | 263,000     |
| 資産合計      | 475,877,600 | 483,376,806 | △ 7,499,206 |
| 負債の部      |             |             |             |
| 流動負債      | 154,425     | 156,521     | △ 2,096     |
| 固定負債      | 1,335,260   | 1,072,260   | 263,000     |
| 負債合計      | 1,489,685   | 1,228,781   | 260,904     |
| 正味財産の部    |             |             |             |
| 指定正味財産    | 108,319,254 | 113,774,563 | △ 5,455,309 |
| 一般正味財産    | 366,068,661 | 368,373,462 | △ 2,304,801 |
| 正味財産合計    | 474,387,915 | 482,148,025 | △ 7,760,110 |
| 負債・正味財産合計 | 475,877,600 | 483,376,806 | △ 7,499,206 |

第4号議案：選挙管理委員選任の件

次期代議員の選出に向け、以下の通り選挙管理委員が選任されました。

- 委員長：望月淳夫（機械S50）  
委 員：長谷場健（農化S49）、菅野茂樹（織工S49）、西山拓詩（地生H14）

第5号議案：令和7年度貸借対照表および正味財産増減計算書の承認に関する件（報告事項①令和7年度事業報告、②監査報告と併せて一括審議）  
令和7年度の事業内容および決算、監査結果が報告され、審議の結果、原案通り承認されました。

報告事項

報告事項③：令和8年度事業計画の件

令和8年度の事業計画について説明があり、内容

が確認されました。

報告事項④：令和8年度収支予算の件

令和8年度の収支予算について説明があり、内容が確認されました。

※詳細な会議資料につきましては、同窓会ホームページに掲載しております。併せてご参照ください。



中村学長による講演



懇親会でのひととき

## 正味財産増減計算書

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

一般社団法人 東京農工大学同窓会  
一般会計

(単位：円)

| 科 目               | 当 年 度         | 前 年 度         | 増 減            |
|-------------------|---------------|---------------|----------------|
| I 一般正味財産増減の部      |               |               |                |
| 1. 経常増減の部         |               |               |                |
| (1) 経常収益          |               |               |                |
| 基本財産運用益           | [ 1,284,699]  | [ 1,241,449]  | [ 43,250]      |
| 基本財産受取利息          | 1,284,699     | 1,241,449     | 43,250         |
| 特定資産運用益           | [ 255,617]    | [ 0]          | [ 255,617]     |
| 特定資産受取利息          | 255,617       | 0             | 255,617        |
| 運用財産収入            | [ 28,001,652] | [ 28,889,448] | [△ 887,796]    |
| 入会金               | 3,695,000     | 3,465,000     | 230,000        |
| 年会費               | 357,000       | 451,500       | △ 94,500       |
| 終身会費              | 1,600,000     | 1,990,000     | △ 390,000      |
| 賛助会費              | 22,110,000    | 20,730,000    | 1,380,000      |
| 利息                | 27,652        | 7,448         | 20,204         |
| 寄附金               | 22,000        | 2,105,500     | △ 2,083,500    |
| 雑収入               | 190,000       | 140,000       | 50,000         |
| 受取寄附金振替額          | [ 5,455,309]  | [ 5,429,752]  | [ 25,557]      |
| 経常収益計             | 34,997,277    | 35,560,649    | △ 563,372      |
| (2) 経常費用          |               |               |                |
| 運用財産支出            | [ 31,846,769] | [ 51,986,464] | [△ 20,139,695] |
| 事業費               | ( 14,986,516) | ( 14,720,209) | ( 266,307)     |
| 動静調査費             | 379,265       | 407,368       | △ 28,103       |
| 会報発行費             | 6,446,415     | 6,080,673     | 365,742        |
| HP管理作成費           | 117,708       | 5,500         | 112,208        |
| 部会・支部活動費          | 5,113,000     | 5,223,400     | △ 110,400      |
| こうほう支援室事業費        | 1,217,117     | 1,240,132     | △ 23,015       |
| 卒業生援助費            | 1,470,966     | 1,506,486     | △ 35,520       |
| 同窓会の森管理費          | 100           | 2,550         | △ 2,450        |
| 資料整備費             | 241,945       | 254,100       | △ 12,155       |
| 会議費               | ( 3,327,147)  | ( 4,428,789)  | (△ 1,101,642)  |
| 総会会議費             | 2,668,723     | 2,608,274     | 60,449         |
| 副会長懇談会(部会長会)会議費   | 87,840        | 99,666        | △ 11,826       |
| 運営委員会会議費          | 4,290         | 1,737         | 2,553          |
| 理事会会議費            | 566,294       | 382,452       | 183,842        |
| 支部長会会議費           | 0             | 1,336,660     | △ 1,336,660    |
| 管理費               | ( 13,533,106) | ( 32,837,466) | (△ 19,304,360) |
| 人件費               | 7,499,351     | 7,204,136     | 295,215        |
| 社会保険料等            | 1,291,244     | 1,383,113     | △ 91,869       |
| 消耗品費              | 25,000        | 108,478       | △ 83,478       |
| 複写機トータルサービス料      | 437,249       | 474,102       | △ 36,853       |
| 通信費               | 101,738       | 153,519       | △ 51,781       |
| 旅費                | 954,282       | 1,189,323     | △ 235,041      |
| 慶弔費               | 35,550        | 4,634         | 30,916         |
| 光熱水費              | 148,603       | 170,843       | △ 22,240       |
| 職員厚生費             | 31,692        | 20,502        | 11,190         |
| 退職給付費用            | 263,000       | 483,000       | △ 220,000      |
| 振込手数料             | 226,987       | 238,314       | △ 11,327       |
| 租税公課              | 316,921       | 261,258       | 55,663         |
| 寄附金(創基150周年事業協力費) | 0             | 20,000,000    | △ 20,000,000   |
| その他雑費             | 2,201,489     | 1,146,244     | 1,055,245      |
| 特定目的事業財産支出        | [ 5,455,309]  | [ 5,429,752]  | [ 25,557]      |
| 学生援助事業費           | 5,455,309     | 5,429,752     | 25,557         |
| 経常費用計             | 37,302,078    | 57,416,216    | △ 20,114,138   |
| 評価損益等調整前当期経常増減額   | △ 2,304,801   | △ 21,855,567  | 19,550,766     |
| 評価損益等計            | 0             | 0             | 0              |
| 当期経常増減額           | △ 2,304,801   | △ 21,855,567  | 19,550,766     |
| 2. 経常外増減の部        |               |               |                |
| (1) 経常外収益         |               |               |                |
| 経常外収益計            | 0             | 0             | 0              |
| (2) 経常外費用         |               |               |                |
| 経常外費用計            | 0             | 0             | 0              |
| 当期経常外増減額          | 0             | 0             | 0              |
| 当期一般正味財産増減額       | △ 2,304,801   | △ 21,855,567  | 19,550,766     |
| 一般正味財産期首残高        | 368,373,462   | 390,229,029   | △ 21,855,567   |
| 一般正味財産期末残高        | 366,068,661   | 368,373,462   | △ 2,304,801    |
| II 指定正味財産増減の部     |               |               |                |
| 一般正味財産への振替額       | [△ 5,455,309] | [△ 5,429,752] | [△ 25,557]     |
| 受取寄附金             | △ 5,455,309   | △ 5,429,752   | △ 25,557       |
| 当期指定正味財産増減額       | △ 5,455,309   | △ 5,429,752   | △ 25,557       |
| 指定正味財産期首残高        | 113,774,563   | 119,204,315   | △ 5,429,752    |
| 指定正味財産期末残高        | 108,319,254   | 113,774,563   | △ 5,455,309    |
| III 正味財産期末残高      | 474,387,915   | 482,148,025   | △ 7,760,110    |

# 同窓会役員等体制と 部会長・支部長及び連絡員表

## 同窓会役員体制（第7回定時総会終了時～第9回定時総会）

**会 長**  
大伴 秀郎（農学S51）

### 副会長

内藤 廣信（農学S41） 農学・生物生産学部会  
安藤 俊幸（蚕糸S49） 蚕糸生物学部会  
仲井まどか（植防S62） 植防・応用生物学部会  
田中 智章（農化S60） 農芸化学・応用生命化学部会  
近江 正陽（林産S60） 林産・生物資源工学部会  
多羅尾光徳（環保H3） 環境科学部会  
近藤 豊（林学S58） 林学部会  
田島 淳（農工S56） 生産環境工学部会  
小池 伸介（地生H13） 地域生態システム学部会  
田谷 一善（獣医S46） 獣医学部会  
溝口 正伸（製糸S46） 製糸・高分子・生命工学部会  
千田 武（織工S46） 繊維・有機材料部会  
高野 文夫（化工S51） 化学工学部会  
太田 克朗（工化S50） 応用分子化学部会  
桑原 利彦（生機S57） 機械システム工学部会

竹村 淳（電子H3） 電気電子工学部会  
伊東 浩（応物S52） 物理システム工学部会  
加藤 美治（MOT H21） MOT部会  
二見 能資（生シ博H17） BASE部会  
船田 良（連農S63） 連合農学部会

### 理 事

理 事 長 野口 恵一（材料H1）  
副理事長 野村 義宏（農化S59）  
副理事長 田中 剛（物生H7）  
理 事 内藤 廣信（農学S41）  
” 安藤 俊幸（蚕糸S49）  
” 近藤 豊（林学S58）  
” 千田 武（織工S46）  
” 高野 文夫（化工S51）  
” 加藤 美治（MOT H21）  
” 目黒 友（蚕糸S53）  
” 南木 好樹（農工S58）  
” 栗原 知（林学S47）

” 森井 源蔵（農工S50）  
” 三宅 信行（環保S55）  
” 寺峰 孜（養蚕S45）

### 監 事

加藤 誠（農工S44）  
鈴木 創三（農学S47）

### 運営委員

総務部長 桑原 利彦（生機S57）  
副 部 長 戸田 浩人（林学S59）  
副 部 長 金田 正弘（獣医H12）  
事業部長 赤井 伸行（環資H11）  
副 部 長 岡本 昭子（応化H15）  
経理部長 斉藤美佳子（工化H11）  
副 部 長 水川 薫子（環資H18）  
広報・情報課 村上 尚（応化H12）  
副 部 長 岡田 洋平（応生H19）  
副 部 長 利谷 翔平（化シスH20）

## 同窓会部会長及び連絡員（令和8年7月25日現在）

| 部会名           | 部会長名         | 連絡員名         |
|---------------|--------------|--------------|
| 農学・生物生産学部会    | 内藤 廣信（農学S41） | 安達 俊輔（生産H19） |
| 蚕 糸 生 物 学 部 会 | 安藤 俊幸（蚕糸S49） | 金勝 一樹（蚕糸S58） |
| 植防・応用生物学部会    | 仲井まどか（植防S62） | 仲井まどか（植防S62） |
| 農芸化学・応用生命化学部会 | 田中 智章（農化S60） | 好田 正（特別会員）   |
| 林産・生物資源工学部会   | 近江 正陽（林産S60） | 安藤 恵介（林産H2）  |
| 環 境 科 学 部 会   | 多羅尾光徳（環保H3）  | 渡邊 誠（環資H11）  |
| 林 学 部 会       | 近藤 豊（林学S58）  | 戸田 浩人（林学S59） |
| 生産環境工学部会      | 田島 淳（農工S56）  | 帖佐 直（農工H4）   |
| 地域生態システム学部会   | 小池 伸介（地生H13） | 吉川 正人（環保H5）  |
| 獣 医 学 部 会     | 竹原 一明（獣医S56） | 金田 正弘（獣医H12） |
| 製糸・高分子・生命工学部会 | 溝口 正伸（製糸S46） | 福谷 洋介（生命H21） |

| 部会名         | 部会長名           | 連絡員名                           |
|-------------|----------------|--------------------------------|
| 繊維・有機材料部会   | 千田 武（織工S46）    | 渡邊 敏行（材料S61）                   |
| 化 学 工 学 部 会 | 高野 文夫（化工S51）   | 滝山 博志（化工S62）                   |
| 応用分子化学部会    | 太田 克朗（工化S50）   | 村上 尚（応化H12）                    |
| 機械システム工学部会  | 桑原 利彦（生機S57）   | ラキンチャラーンヤク、<br>ボンサートン（機シス院H14） |
| 電気電子工学部会    | 竹村 淳（電子H3）     | 竹村 淳（電子H3）                     |
| 物理システム工学部会  | 伊東 浩（応物S52）    | 村山 能宏（特別会員）                    |
| M O T 部 会   | 加藤 美治（MOT H21） | 夏 恒（機シス工博H7）                   |
| B A S E 部 会 | 二見 能資（生シ博H17）  | 赤井 伸行（生シ博H16）                  |
| 連 合 農 学 部 会 | 船田 良（連農S63）    | 大倉 茂（連農H24）                    |

## 同窓会支部長及び連絡員（令和8年7月25日現在）

| 支部名 | 支部長名         | 連絡員名          |
|-----|--------------|---------------|
| 北海道 | 藤田 二（農工S58）  | 岩佐 秀明（高工H1）   |
| 青 森 | 大橋 統州（農学S54） | 楠美 祥行（電子S58）  |
| 岩 手 | 藤原 哲雄（農学S60） | 小澤 結（環資H11）   |
| 宮 城 | 鈴木 正彦（林学S57） | 豊川 高弘（地生H17）  |
| 秋 田 | 倉部 明彦（農工S57） | 晶山 欣也（環・資H8）  |
| 山 形 | 大嶋 博之（植防S60） | 小林賢太郎（生産H30）  |
| 福 島 | 目黒 友（蚕糸S53）  | 薄井 智之（応生H24）  |
| 茨 城 | 川野 和彦（林学S50） | 磯邊 晋吾（林学S62）  |
| 栃 木 | 南木 好樹（農工S58） | 篠崎 敦（生産H18）   |
| 群 馬 | 山本 明（農工S45）  | 影澤 圭太（林産H3）   |
| 埼 玉 | 山永 高男（植防S53） | 竹詰 一（農学H2）    |
| 千 葉 | 伊藤 道男（林学S48） | 津金 胤昭（応生H6）   |
| 東 京 | 池谷 紀夫（農学S49） | 須藤 晃（植防S58）   |
| 神奈川 | 坂本 英介（蚕糸S53） | 今野 次郎（林学H4）   |
| 新 潟 | 宮里 圭一（農工S53） | 村山 康則（農学H3）   |
| 富 山 | 串田 泰彦（農学S62） | 飯野 師（地生H18）   |
| 石 川 | 坂口浩一郎（林学S58） | 濱崎 貴史（環資H15）  |
| 福 井 | 野坂 雄二（農工S53） | 新海 隆介（環・資H12） |
| 山 梨 | 眞浦 正徳（養蚕S46） | 小松澤 靖（林学H2）   |
| 長 野 | 鈴木 秀行（農学S55） | 小坂橋晴之（地生H19）  |
| 岐 阜 | 雨宮 功治（植防S60） | 二木 次郎（林産H4）   |
| 静 岡 | 杉山 嘉英（林学S52） | 小松 鷹介（地生H23）  |
| 愛 知 | 城戸 毅（林学S58）  | 山口 知幸（農学H4）   |
| 三 重 | 西野 実（生産H7）   | 豊田 晶子（生産H18）  |

| 支部名 | 支部長名          | 連絡員名          |
|-----|---------------|---------------|
| 滋 賀 | 森井 源蔵（農工S50）  | 鈴木 一成（地生H25）  |
| 京 都 | 松井 崇（農工S51）   | 平野 孝志（農工S53）  |
| 大 阪 | 佐々木良和（農工S39）  | 中野 淳（機械S60）   |
| 兵 庫 | 上坂 修一（林産S54）  | 櫻野 由憲（林産S59）  |
| 奈 良 | 山本 治幸（電気S54）  | 岩治 新（地生H20）   |
| 和歌山 | 中尾 俊二（林学S53）  | 森本 唯史（地生H16）  |
| 鳥 取 | 江原 宏昭（農学院S48） | 坂東 悟（農化S61）   |
| 島 根 | 松浦 史瑞（林産H1）   | 中島 敬（農工H4）    |
| 岡 山 | 渡邊 直人（林学S50）  | 佐野 大樹（生産院H16） |
| 広 島 | 三宅 信行（環保S55）  | 石田 一之（機械S59）  |
| 山 口 | 松村 聡（工化S46）   | 岡本 賢一（植防H4）   |
| 徳 島 | 小杉純一郎（林学S63）  | 竹内 俊博（化工H4）   |
| 香 川 | 鳥取 康治（織高S51）  | 遠藤 克彰（機シスH24） |
| 愛 媛 | 鋤先 孝一（環保S52）  | 尾中 直道（環・資H7）  |
| 高 知 | 寺峰 孜（養蚕S45）   | 豊田 陽一（蚕糸S57）  |
| 福 岡 | 後藤 卓（林産S50）   | 金澤 元仁（林学H5）   |
| 佐 賀 | 御厨 秀樹（植防S56）  | 御厨 秀樹（植防S56）  |
| 長 崎 | 古賀 淳士（農学S52）  | 植村 直己（生産H7）   |
| 熊 本 | 堀 洋一（織高S51）   | 上野 周子（植防S61）  |
| 大 分 | 板井 隆（農学S52）   | 池上 哲生（農学H4）   |
| 宮 崎 | 森 房光（林学S53）   | 二上 拓真（地生H27）  |
| 鹿児島 | 平 繁人（養蚕S45）   | 長谷川信幸（製糸S54）  |
| 沖 縄 | 茂木 正徳（環保S54）  | 大城 篤（応生H9）    |



# 令和7年度 同窓会学生援助事業報告



同窓会学生援助事業では、在学生（準会員）の学会発表、コンテスト・コンクールへの出場、優秀卒業論文、種々の課外活動、学園祭に対して「同窓会研究課外活動奨励賞」および副賞を授与しています。

この事業は、会員の皆様から納入いただいた同窓会費（終身会費・年会費）や入学時に納入いただいた入会金・賛助会費により運営しております。令和7年度の援助総額は3,831,200円でした。ここにご報告させていただきますとともに、厚くお礼申し上げます。

今後とも母校援助にご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

※詳細については、同窓会ホームページ (<https://tuat-dousoukai.org/student/>) をご覧ください

| 事 項               | 件 数      | 金 額        |
|-------------------|----------|------------|
| 学会発表＜参加・出場＞       | 149名     | 745,000円   |
| 学会発表＜入賞＞          | 37名      | 185,000円   |
| コンテスト・コンクール＜出場＞   | 1個人・25団体 | 255,000円   |
| コンテスト・コンクール＜入賞＞   | 1個人・14団体 | 75,000円    |
| 学会誌・論文誌発表         | —        | —          |
| 優秀卒業論文            | 8学科      | 80,000円    |
| 課外活動＜学園祭＞         | 2件       | 200,000円   |
| 課外活動＜サークル活動＞      | 20件      | 1,000,000円 |
| 課外活動＜リーダーズトレーニング＞ | 1件       | 50,000円    |
| キャリアアドバイザー支援      | 2名       | 120,000円   |
| 卒業・修了証書カバー贈呈      | 1,780名   | 1,121,200円 |
| 合 計               |          | 3,831,200円 |

## ＝令和7年度「同窓会学生援助事業 研究課外活動奨励賞」受賞者のコメント＝

この度は、同窓会の学生援助事業にて奨励賞をいただき、誠にありがとうございます。私は昨年12月に開催された「第48回日本分子生物学会年会」において、「肺癌細胞の微小管阻害薬抵抗性における分子機構」という演題でポスター発表を行い、ポスター賞を受賞いたしました。

本研究では、抗癌剤の一つであるパクリタキセルの耐性機構に着目し、薬剤排出に関与するABCトランスポーターがパクリタキセル耐性において重要な役割を担うこと、ならびにABCトランスポーターが有効な治療標的になり得る可能性を報告しました。

本研究成果は、指導教員である稲田全規先生をはじめ、稲田研究室の皆様、そして同窓会の皆様のご支援の賜物です。今後は博士後期課程に進学し、肺癌治療の発展に貢献できるよう、より一層研究に励んでまいります。

池田 圭佑さん

工学部 生命工学専攻 博士 1年



この度同窓会学生援助事業 奨励賞をいただきました。その内容としては、学部3年次に応募した「マルツエレック第4回学生アイデアコンテスト」にて奨励賞を賜りました。発表内容は自律型小型ロボットによる収束太陽熱および電熱・踏圧を用いた雑草防除システムの実証用装置の設計になります。主に傾斜地における農林業のために、耕耘・地拵え後に熱と踏圧による種子の破壊をすることで草刈り・下刈りを省力化できないかという提案です。特に土壌中の熱動態について非常に大きな懸念がありつつも、その発想と電氣的なシステム設計の部分をご評価いただきました。

まだまだ学びの最中ではございますが、その過程と意欲、断片が外部機関により評価され、認められるという貴重な経験をいたしました。この場を借りて、同窓会の皆様からの多大なるご支援に対する感謝と共に、在学生含む学習の途中の皆様へ、小さな一歩ではありますが成果を共有いたします。

林 恵悟さん

農学部 地域生態システム学科 4年



## 学生援助事業 (後期) 募集

令和8年11月13日～  
令和9年1月20日

(HPでご案内します)

お知らせ

### 援助対象

- 令和8年度内に実施、又は実施予定の(1)～(3)が対象となります。
- (1) 学会発表（年度1回 後期で募集）
  - (2) 研究あるいは技術開発等のコンテスト・コンクール出場等（年度1回 後期で募集）
  - (3) 学会誌・論文誌発表等の援助（年度2回 前期、後期で募集）
- 応募資格（会費納入）・応募方法は同窓会ホームページ＜学生援助事業＞をご覧ください。

# 第68回 農工祭 農学部学園祭

at 府中キャンパス

11月13日(金)～15日(日) 開催予定！詳しくは

東京農工大学 農工祭

検索

工学部学園祭「草棚祭」は毎年5月開催となります。

# 部会・支部・同好会・クラス会だより

部会・支部・同好会・クラス会だよりの最新情報は、同窓会ホームページに随時掲載しております。  
(誌面の都合上、実施事項の詳細等は同窓会ホームページにて全文を公開しております。)

## 部会だより

ご所属の部会は、卒業（修了）時の学科に基づいております。HP「部会・支部総会日程」下部にある「部会一覧表」を参照下さい。

### 生産環境工学部会



日 時 令和7年10月4日（土）  
開 催 場 所 府中キャンパス2号館（対面開催）  
参 加 人 数 26名  
実 施 事 項 部会総会・懇親会  
報 告 者 帖佐直（農工H4）

#### ●幹事のコメント●

総会では田島新部会長より、新年度の活動は在校生と卒業生の交流に力を入れる旨の方針が示され、続いて現在、農学研究院農業環境工学部門長である帖佐直教授（農工H4）より、農工大の現状について報告、その後総会が行われた。また、講演会では、2025年2月に着任された農学研究院農業環境工学部門・准教授の浅田洋平先生より「老朽化する農業インフラの機能診断技術について」、(株)三祐コンサルティング・代表取締役社長の堀田昇克氏（農工S63）より「建設コンサルタントについて」講演をいただいた。開催時期を後期が始まったこの時期に変更し、学生との交流を試みたが、学生の参加は1名にとどまった。懇親会の参加者は、同窓会本部の監事の加藤誠先生（農工S42）、講師の浅田先生を含め25名でした。

### 獣医学部会



日 時 令和7年7月12日（土）  
開 催 場 所 農学部2号館1階11番教室  
本 部 派 遣 金田正弘（運営委員）  
参 加 人 数 29名  
実 施 事 項 部会総会・懇親会  
報 告 者 金田正弘（獣医H12）

#### ●幹事のコメント●

獣医学部会では毎年総会を行っており、一昨年度から対面開催が再開された。また、総会に続いて行っている研究講演会では3人の先生方から国外・国内での獣医師の活躍に関する講演をいただいた（岩瀬 慎司先生、濱部 理奈先生、堀江 真悠先生）。昨年度から懇親会も再開し、活発な議論と共にOB間の親睦を深めることができた。今後とも様々な試みを通して、同窓会活動の活性化を行っていききたいと考えている。

### 応用分子化学部会



日 時 令和7年11月15日（土）  
開 催 場 所 小金井キャンパス BASE棟・エリプス  
本 部 派 遣 村上 尚（運営委員）  
参 加 人 数 67名（会員66名、派遣運営委員1名）  
実 施 事 項 部会総会・懇親会  
報 告 者 村上 尚（応化H12）

#### ●幹事のコメント●

総会では、活動・会計報告および新役員人事が全会一致で承認されました。熊谷先生（工学研究院応用化学部門・教授）による大学・学科の現況に関する講演も行われ、会員の関心を集めました。続く懇親会では、創基150周年の歩みに関する映像が放映され、大学の変遷を懐かしむ会員も多く見られました。終始和やかな雰囲気の中で旧交を温め合い、盛会のうちに終了いたしました。

### 連合農学部会



日 時 令和7年10月30日（木）  
開 催 場 所 府中キャンパス本館講堂・邂逅館  
本 部 派 遣 大川 泰一郎 先生  
参 加 人 数 約100名  
実 施 事 項 連合農学研究科設立40周年記念式典・記念シンポジウム・研究交流会  
報 告 者 大倉 茂（連農H24）

#### ●幹事のコメント●

連合農学研究科の設立40周年を記念し、式典、シンポジウム、研究交流会を開催しました。文部科学省、構成大学学長、農学部長、農工大役員、歴代研究科長、歴代専任教員、構成大学教職員および学生約100名が参加しました。

記念シンポジウムでは本研究科修了生5名が在学時のエピソードを交えながら最新の研究や活動について講演を行い、参加者にとって非常に有意義な内容となりました。

#### ■【お知らせ】製糸・高分子・生命工学部会開催について

■部会活性化の一環として下記にて部会を開催いたします。

日時 令和8年11月21日（土） 13:00

場所 岡谷蚕糸博物館—シルクファクトおかや—

締切 9月末日

詳細・問合せ：部会長 溝口 sna43948@nifty.com

## 支部だより

多くの支部で総会が開催されています。日程等の詳細は、ホームページの「部会支部活動」>「部会・支部総会日程」よりご確認ください。

### 北海道支部



日 時 令和7年12月6日(土)  
開 催 場 所 TKP ガーデンシティ札幌駅前 (WEB形式併用)  
本 部 派 遣 田中 一生 先生  
参 加 人 数 29名 (うち、WEB参加3名)  
実 施 事 項 支部総会・懇親会  
報 告 者 岩佐 秀明 (高工H1)

#### ●幹事のコメント●

今回は、初参加会員9名を含む計29名が参加し、近年まれに見る盛況な総会となりました。最初に、本年度から始めた在校生向けの北海道相談窓口の開設などの事業報告が行われ、またその継続的な実施を含めた次年度計画案が承認されました。その後、来賓の田中様より母校の近況報告と現在取り組まれている「J-PEAKS (米国・ハワイ事業)」についてご紹介をいただき、次に元北海道支部長の西村弘行氏より「行者ニンニク研究ヒストリーと事業化最前線」についてご講演いただきました。両講演ともに、アカデミックでありながらわかりやすい内容で、参加者から大変好評をいただきました。

### 青森県支部



日 時 令和7年11月8日(土)  
開 催 場 所 海坊厨 (青森市)  
参 加 人 数 11名  
実 施 事 項 支部総会・懇親会  
報 告 者 楠美 祥行 (電子S58)

#### ●幹事のコメント●

掲載の許諾を頂いた会員名を取りまとめた令和7年度版の支部会員名簿を配布し、同窓の交流を深めるためのきっかけづくりといたしました。また、懇親会では、各会員がお互いの学生生活の思い出を語り合い、また、社会人となってからの活躍や近況についてもお話が弾み、大変和やかな会となりました。

### 岩手県支部



日 時 令和8年2月21日(土)  
開 催 場 所 菜園マイクロブルワリー with Kitchen (盛岡市)  
参 加 人 数 12名  
実 施 事 項 支部総会・懇親会  
報 告 者 小澤 結 (環資H11)

#### ●幹事のコメント●

今回は、本部派遣を依頼せず、総会及び懇親会のみの開催としました。昨年に引き続き有名なベアレンビール (蚕糸OBの嶋田さんが起業) の直営店を会場とした懇親会では、たくさんのクラフトビールとおいしい料理を堪能しました。参加人数は比較的少なかったものの、参集者同士初めて顔を合わせる方々もあり、大いに盛り上がりました。

### 宮城県支部



日 時 令和7年7月12日(土)  
開 催 場 所 ホテル白萩 (仙台市)  
本 部 派 遣 野口 恵一 先生  
参 加 人 数 20名  
実 施 事 項 支部総会・懇親会  
報 告 者 大類 清和 (林学H2)

#### ●幹事のコメント●

岩手県支部からのご招待をきっかけに、当支部においても隣県交流を進めるべく取組を始めることとし、今回、岩手県支部の方々をお招きして会を開催しました。隣県との交流により、母校の思い出話が広がるとともに、本部からご出席いただいた野口恵一先生からも大学の近況についてご紹介いただくことで、改めて母校への思いを新たにするとともに、初参加の会員や久しぶりに出席の会員も含め、昨年度を上回る参加者が集まり、大変賑やかで有意義な会となりました。

### 秋田県支部



日 時 令和8年1月31日(土)  
開 催 場 所 協働大町ビル  
本 部 派 遣 桑原 利彦 先生  
参 加 人 数 24名  
実 施 事 項 支部総会・懇親会  
報 告 者 畠山 欣也 (環境・資源H8)

#### ●幹事のコメント●

新型コロナの影響等による中断を経て、令和元年以来6年ぶりとなる支部総会を開催しました。久しぶりの開催にもかかわらず、お馴染みの諸先輩方に加え、初参加者の若手まで幅広い世代から参加いただきました。

本部よりお越しいただいた桑原先生からは母校の近況を伺い、参加者は改めて母校への誇りを深くした次第です。その後の懇親会も、互いの近況を語り合ううちに時間はあっという間に過ぎ、三次会まで世代を超えて大いに盛り上がり、非常に有意義な再会の場となりました。

### 福島県支部



日 時 令和7年7月12日(土)  
開 催 場 所 ホテル福島グリーンパレス (福島市)  
本 部 派 遣 水川 薫子 先生  
参 加 人 数 28名  
実 施 事 項 支部総会・懇親会  
報 告 者 横山 健 (国際院H22)

#### ●幹事のコメント●

同窓会運営委員経理副部長 水川薫子先生のご臨席を賜り、会員28名が出席し、支部総会を開催しました。総会では、令和6年度事業報告並びに令和7年度事業計画について原案どおり承認されました。また、役員の一部変更についても原案どおり承認されました。総会終了後に開催した懇親会では、会員相互に親睦を深めることができました。

## 栃木県支部



日 時 令和7年12月14日(日)  
開 催 場 所 ホテルマイステイズ宇都宮  
本 部 派 遣 大川 泰一郎 先生  
参 加 人 数 13名  
実 施 事 項 支部総会・懇親会  
報 告 者 篠崎 敦(生産H18)

### ●幹事のコメント●

総会後の懇親会においては、南木支部長及び西川顧問から社会情勢なども踏まえた時宜を得たご挨拶をいただくとともに、来賓の大川様より母校の近況をご紹介いただきました。また、出席の皆さまからも一言ずつ近況報告をいただくなど、世代を超えた会員間の活発な交流が行われました。

会員の皆さまにおかれましてはご自愛いただきますとともに、改めて、栃木県支部活動へのご理解とご協力をお願いいたします。

## 群馬県支部



日 時 令和7年11月16日(日)  
開 催 場 所 ホテル「ラシーネ新前橋」  
本 部 派 遣 赤井 伸行 先生  
参 加 人 数 26名  
実 施 事 項 支部総会・懇親会  
報 告 者 影澤 圭太(林産H3)

### ●幹事のコメント●

群馬県支部の定期総会を、久保田名誉会長をお招きし開催したところ、26名の参加により盛大に実施することが出来ました。講演では、急なお願いしたのにも関わらず赤井先生から即興で大学の現在をご紹介いただきました。また総会後の懇親会では、退職後の楽しい近況や、大学への思いなどを全員が語って頂き、笑顔溢れる宴会になりました。来年度以降も開催いたしますので、県内の同窓の皆様には是非参加をお願いいたします。ご参加の皆様にはありがとうございました。

## 埼玉県支部



日 時 令和7年11月3日(月)  
開 催 場 所 銀座アスター浦和賓館  
参 加 人 数 25名  
実 施 事 項 支部総会・懇親会  
報 告 者 竹詰 一(農学H2)

### ●幹事のコメント●

総会では、令和6年度事業報告並びに決算報告、令和7年度事業計画並びに予算案、役員の改選について審議され承認されました。

また、令和7年5月25日に秩父ミュージアムパークを主会場に開催した第75回全国植樹祭に埼玉県支部から協賛を行い、それに対し全国植樹祭実行委員会会長の大野元裕埼玉県知事から感謝状が授与されたことが報告されました。

## 東京都支部



日 時 令和7年7月12日(土)  
開 催 場 所 140周年記念会館(エリプス)3階ホール  
本 部 派 遣 池谷 紀夫 同窓会事務局員  
参 加 人 数 27名(23名、web出席者4名)  
実 施 事 項 支部総会・懇親会  
報 告 者 栗原 知(林学S47)

### ●幹事のコメント●

前年度同様、12,000名近い東京支部会員のうち連絡可能な約2,000名にメールで参加を呼び掛けた結果、27名が出席し、39名から委任状の提出があった。支部の会則は前年度、条件付きで承認されていたが、この1年間に有志で会則プロジェクトを断続的に重ね、新たに「東京都支部総則」として提案し、承認された。

総会の進め方は各方面で経験豊富な人材を得たため、円滑な進行が可能だった。総会終了後、懇親会を開き、近況報告などを行った。

## 神奈川県支部



日 時 令和8年1月31日(土)  
開 催 場 所 英一番館(横浜市)  
本 部 派 遣 赤井 伸行 先生  
参 加 人 数 29名  
実 施 事 項 支部総会・懇親会  
報 告 者 今野 次郎(林学H4)

### ●幹事のコメント●

赤井先生には、卒論・修論指導で大変ご多忙のところご出席いただき、「西東京国際イノベーション共創拠点」など、大学の近況についてご紹介いただきました。懇親会では、米寿を迎える大先輩から現役大学院生まで各年代の同窓生から一人ずつ近況報告などを、時に実演を交えながら、お話しいただきました。不慣れな幹事でしたが皆様に支えられ、賑やかな会になりました。

## 新潟県支部



日 時 令和7年7月12日(土)  
開 催 場 所 「富来屋」(新潟市中央区)  
本 部 派 遣 大川 泰一郎 先生  
参 加 人 数 16名  
実 施 事 項 支部総会・懇親会  
報 告 者 村山 康則(農学H3)

### ●幹事のコメント●

定例総会では決算・予算等が承認され、総会の後、大川理事より本学の近況報告と稲作に関する意見交換が行われました。

懇親会では、参加者の近況報告など世代を超えて思い出話に花が咲き、締めは校歌伝承役・大川理事が音頭をとり、駒場小唄フルバージョンの大合唱で盛り上がり、来年の再会を誓い散会しました。

富山県  
支部

日 時 令和8年3月7日（土）  
開 催 場 所 ホテルグランテラス レストラン「こし路」（富山市）  
本 部 派 遣 大川 泰一郎 先生  
参 加 人 数 10名  
実 施 事 項 支部総会・懇親会  
報 告 者 飯野 師（地生H18）

## ●幹事のコメント●

令和8年度予算では、昨年若年層の意見を聴取することを目的として初めて開催した若手支部会員交流会を「支部幹事会」として発足させ、支部活動に関する企画立案や支部運営方針案を支部総会へ提起することとし、年間の活動費などが計上されました。

また、支部長の交代案や次期代議員候補者の支部推薦に備えた新たな代議員案についても了承いただきました。

本部から派遣していただいた大川先生から、大学の近況や研究力、人材育成への評価、卒業生の交流についてお話しいただき、会員の皆様も刺激を受けておられる様子でした。

今後とも、新たな視点により時代に合わせた活動に取り組む体制づくりに心がけ、支部活動がより活性化できるよう会員の皆様と共に努力していきたいと思ひます。

長野県  
支部

日 時 令和7年11月8日（土）  
開 催 場 所 長野ホテル犀北館（長野市）  
本 部 派 遣 利谷 翔平 先生  
参 加 人 数 29名  
実 施 事 項 支部総会・懇親会  
報 告 者 小坂橋 晴之（地生H19）

## ●幹事のコメント●

信濃同窓会の総会は隔年で開催しており、2年ぶりの総会となりました。本部からは、利谷翔平先生にお越しいただき、東京農工大学創基150周年の取組など近況についてお話いただきました。また講演会では、篠田秀徳様（地生H19）から「卒業後の軌跡」をテーマに、国内・インドでの鉄道事業、社会貢献活動に携わってきたご経験について発表をいただきました。最後は、恒例の校歌斉唱を行い、同窓生の絆を深めることができました。当会は総勢800名を超える会員がおりますので、引き続き、若い世代も含め、会員間の交流が深まるよう取り組んでまいりたいと思ひます。

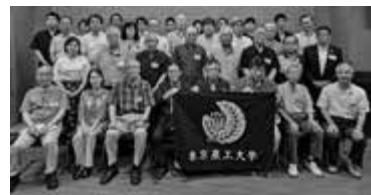
岐阜県  
支部

日 時 令和7年7月5日（土）  
開 催 場 所 岐阜ワシントンホテルプラザ 銀座八丁  
本 部 派 遣 赤井 伸行 先生  
参 加 人 数 16名  
実 施 事 項 支部総会・懇親会  
報 告 者 雨宮 功治（植防S60）

## ●幹事のコメント●

今回の役員改選で工藤正弘支部長が勇退し雨宮功治が後任となった。本部から赤井伸行先生をお招きし大学の近況について講話していただいた。

その後の懇親会では、初出席や久々の方、若い方も比較的多い中、参加者から事前に報告いただいた近況や大学の思い出を記載した資料と1分間スピーチにより、会員同士の会話は途切れることなく盛り上がり、時間が過ぎるのを忘れお店から退店を促されるほどであった。

静岡県  
支部

日 時 令和7年6月21日（土）  
開 催 場 所 静岡県教育会館すんぷら一ざ  
参 加 人 数 35名  
実 施 事 項 支部総会・懇親会  
報 告 者 小松 鷹介（地生H2）

## ●幹事のコメント●

今年度は昨今の会場費高騰を受け、場所を変えての開催となりました。定時総会と日程が重なってしまい、本部からの出席は叶いませんでしたが、郵送いただいた資料で大学の近況を共有しました。

恒例の会員による講演は、渡辺豊博様（農工S48）から「セカンドステージの生き方とNPO活動」と題してお話をいただき、現役世代からシニア世代まで熱心に耳を傾けていました。

大先輩から若手までが交流する同窓会は、世代を問わず大きな刺激になっているように感じます。

愛知県  
支部

日 時 令和7年11月29日（土）  
開 催 場 所 楽蔵 伏見店（名古屋市）  
参 加 人 数 25名  
実 施 事 項 懇親会  
報 告 者 山口 知幸（農学H4）

## ●幹事のコメント●

昨年度の支部総会の際に近年は隔年で行っていた懇親会を毎年行ったいかかとの意見がありましたので、昨年度に引き続き今年度も懇親会を開催しました。支部会員への連絡が開催間際になってしまったので、どのくらい参加してくれるか心配しておりましたが、25名の参加を得て無事開催することができました。赤ちゃん連れで参加していただいた会員もあり、幅広い年齢層の方が一緒になって盛り上がり、懇親会終了後にはその日のうちに支部あてにメールで「楽しかった」との感想をいただきました。今後も懇親会は毎年開催していきますので支部会員の皆様よりよろしくお願いいたします。

三重県  
支部

日 時 令和7年9月7日（日）  
開 催 場 所 「新玉亭」（津市）  
本 部 派 遣 池谷 紀夫 同窓会事務局員  
参 加 人 数 12名  
実 施 事 項 支部総会・懇親会  
報 告 者 西野 実（生産H7）

## ●幹事のコメント●

本年も、「新玉亭」にて三重県支部の総会と懇親会を開催しました。同窓会本部から池谷紀夫前事務局長を迎え、大学の近況について報告いただきました。参加人数は12名とほぼ例年並みで、あまり多くはありませんが、近況報告などしながら楽しいひと時を過ごせました。

## 兵庫県支部



日 時 令和7年10月28日(日)  
開 催 場 所 東急REIホテル(神戸市)  
本 部 派 遣 桑原 利彦 先生  
参 加 人 数 31名  
実 施 事 項 支部総会・懇親会  
報 告 者 上坂 修一(林産S54)

### ●幹事のコメント●

今回初めて参加者を増やす目的で兵庫県支部員による講演会「退職後の起業の紹介」を企画し実施。また奈良県支部の山本支部長も参加いただいた。

参加者は前年から大幅に増えて30名(去年は20名)さらに初参加者が多く、女性の参加者も4名もあり。但し、病気などによる常連参加者の欠席も増え継続的に参加者を増やすためには今後はさらに新しい企画などによる活性化を進めたい。また、通信費削減のため同窓会の案内もメールの活用も継続していきたい。

## 鳥取県支部



日 時 令和7年12月6日(土)  
開 催 場 所 ホテルセントパレス倉吉  
本 部 派 遣 桑原 利彦 先生  
参 加 人 数 9名  
実 施 事 項 支部総会・懇親会  
報 告 者 坂東 悟(農化S61)

### ●幹事のコメント●

12月初旬、恒例となった同窓会を鳥取県中部に位置する倉吉市で行いました。当日は本部からお越しいただいた桑原名誉教授から農工大の近況をお聞きし、その後、懇親会へと突入しました。桑原名誉教授のお話から、学生や先生方ともに優れた結果を残している様子が伺え、出席者それぞれが勇気づけられたようでした。懇親会ではお互いの状況を吐露し合うことでお互いを身近に感じられた、温かな時間となりました。「同窓会」にはさまざまな課題があることを承知していますが、世代を超えてつながる和やかな時間がこの後も続くことを願っています。

## 島根県支部



日 時 令和6年12月14日(土)  
開 催 場 所 神楽(浜田市)  
参 加 人 数 10名  
実 施 事 項 支部総会・懇親会  
報 告 者 中島 敬(農工H4)

### ●幹事のコメント●

総会では前年の事業報告、今年度の事業計画が承認されました。また、総会後の懇親会で、支部のSNSグループを立ち上げ、日々の情報交換をするとともに、多くの会員の皆様に参加してもらえよう各自で声掛けをしようということになりました。最後に、来年度の再会と一人でも参加者が増えることを期待して、散会しました。

## 岡山県支部



日 時 令和7年8月23日(土)  
開 催 場 所 ビュアリティまぎび(岡山市)  
本 部 派 遣 桑原 利彦 先生  
参 加 人 数 16名  
実 施 事 項 支部総会・懇親会  
報 告 者 佐野 大樹(生産院H16)

### ●幹事のコメント●

講演会として、工学研究院先端機械システム部門の桑原利彦先生から「東京農工大学の近況」、杉原智始氏から「私のベトナム交流」と題して、ご講演をしていただきました。大学の様子や、約20年以上にわたるベトナム交流の楽しいお話をうかがうことができました。

懇親会では参加者相互の近況交換等を行い、楽しい一時を過ごすことができました。

## 広島県支部



日 時 令和7年5月18日(日)  
開 催 場 所 ホテルメルパルク広島  
本 部 派 遣 桑原 利彦 先生  
参 加 人 数 20名(派遣理事含む)  
実 施 事 項 支部総会・懇親会  
報 告 者 石田 一之(機械S59)

### ●幹事のコメント●

今年度から開催準備補助費が1万円アップされるという事で、引き続き年度始めの開催を継続。メール案内、Facebook掲載等効果で昨年と同じ20名が参加。今年は派遣理事が機械システムの桑原先生ということもあり研究室等で関係があった若いマツダ社員の参加者が増加。次回に向け恩師との繋がりの大切さを認識。総会では三宅支部長と桑原先生からの農工大の近況報告。懇親会前には全員で握手しながら顔と名前を記憶。記念撮影後、懇親会では全員自己紹介と楽しい近況報告で歓談。一本締めを行い楽しい同窓会を終了。

## 山口県支部



日 時 令和7年7月27日(日)  
開 催 場 所 山口グランドホテル(山口市)  
本 部 派 遣 野口 恵一 先生  
参 加 人 数 8名  
実 施 事 項 支部総会・懇親会  
報 告 者 岡本 賢一(植防H4)

### ●幹事のコメント●

野口先生により「特色のある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」や「西東京国際イノベーション共創拠点/邂逅館」の様々な取り組みや、野口先生が取り組んでおられる「新規ポリエチレンテレフタレート(PET)分解酵素の探索」について、わかりやすく説明していただきました。

懇親会では昔話に花が咲き、大いに盛り上がりました。講演を引き受けてくださった野口先生をはじめ、集まった支部会員の方にも満足していただけたと思います。

老若男女を問わず楽しめるのが当支部です。山口県出身者・在住者の積極的な参加をお待ちしています。

徳島県  
支部

日 時 令和7年10月18日(土)  
開 催 場 所 活魚水産紺屋町店(徳島市)  
本 部 派 遣 村上尚先生  
参 加 人 数 3名  
実 施 事 項 支部総会・懇親会  
報 告 者 名 小杉 純一郎(林学S63)

## ●幹事のコメント●

今年は本部から、工学研究院 応用化学部門の村上尚教授にご参加いただきました。先生から大学の近況や研究のお話を伺い、楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

より多くの同窓の方々と共有できれば、さらに楽しい時間になっただろうと思うと、参加者が少なかったのが残念なところです。

村上先生、ありがとうございました！

愛媛県  
支部

日 時 令和8年1月31日(土)  
開 催 場 所 四川飯店(松山市湊町)  
参 加 人 数 7名  
実 施 事 項 支部運営報告  
報 告 者 名 尾中 直道(環・資H7)

## ●幹事のコメント●

- ・今後の役員の交代に向けて、若手会を実施したことを報告。(11月15日開催)
- ・次年度、役員が経営している蚕に関する会社見学を企画することが提案されました。また、支部総会は2027年2月頃についても了承。
- ・役員の白石郁朗氏の著書が愛媛新聞社の賞を受賞したことが報告されました。

福岡県  
支部

日 時 令和7年11月30日(日)  
開 催 場 所 赤らく ホテルクリオコート博多  
本 部 派 遣 池谷 紀夫 同窓会事務局員  
参 加 人 数 20名  
実 施 事 項 支部総会・懇親会  
報 告 者 名 平島 亮介(生産H13)

## ●幹事のコメント●

懇親会では、お一人ずつ近況報告をお願いしました。学生時代の部活や寮での思い出、就職の経緯、現在について、語っていただきました。20代から80代までの卒業生がおられましたので、さまざまな経歴の方々がおられることに、感心させられました。

池谷様から農工大の変貌と現況を伺え、同窓会員の皆様の興味がそられました。再度農工大に伺いたくなります。

出席された方から、毎年、総会懇親会を開催してほしい、というご要望も出ましたので、みなさま大変楽しめたことと思います。

総会出席者の増加のための企画や同窓会員の交流など、今後話し合いながら、福岡県支部をよりよく発展させていきます。

長崎県  
支部

日 時 令和7年7月19日(土)  
開 催 場 所 ホテル セントヒル長崎  
参 加 人 数 14名【+委任状提出27名=計41名】  
実 施 事 項 支部総会・交流会  
報 告 者 名 古賀 淳士(農学S52)

## ●幹事のコメント●

令和元年以来、新型コロナの影響等で本来の集合総会が開催できず、その間、書面決議総会が続き、6年振りに集合総会が開催できた今年是非常に感慨深いものがありました。総会審議は、2議案の承認と報告事項の説明で無事終了。記念撮影後の交流会では、昭和32年卒から令和4年卒まで14名＝昭和卒10名・平成卒3名・令和卒1名＝が、円卓を囲み弁当昼食と飲み物を頂きながら、年代を超えて歓談しました。

熊本県  
支部

日 時 令和7年7月26日(土)  
開 催 場 所 アークホテル熊本城前  
参 加 人 数 24名  
実 施 事 項 支部総会・懇親会  
報 告 者 名 上野 周子(植防S61)

## ●幹事のコメント●

今年度の支部総会は、上は93歳の秋山先輩(養蚕S30)、藤本先輩(林学S30)からと年配者が元気にご出席いただき、楽しい時間を過ごしました。

懇親の中では各自自己紹介や近況、大学時の思い出を各自報告していただき、中でも行徳さん(植防S57)は、第13回櫛寮祭の法被(自宅を片づけていて発見されたとのこと)を持参され、当時の寮生たちが懐かしんでおられました。年配者が多い熊本県支部ですが、次年度も元気で集い、懐かしい想いを語れますよう祈っています。

大分県  
支部

日 時 令和7年9月27日(土)  
開 催 場 所 センチュリーホテル大分(大分市)  
参 加 人 数 13名  
実 施 事 項 支部総会・懇親会  
報 告 者 名 池上 哲生(農学H4)

## ●幹事のコメント●

弔事に際して、あらかじめ支部の対応を決めておくことを目的に事務局案を提示し、様々なご意見を承った。

総会後に佐藤朝子会員(林学H5)から「世界一周旅行してみた件」と題して、3カ月のクルーズの旅で体験したお話をしていただいた。

宮崎県  
支部

日 時 令和7年7月5日（土）  
 開催場所 ニューウェルシティ宮崎  
 本部派遣 池谷 紀夫 同窓会事務局員  
 参加人数 15名  
 実施事項 支部総会・懇親会  
 報告者 二上 拓真（地生H27）

●幹事のコメント●

総会後、池谷紀夫氏（農学S49）より、大学の近況や他県の同窓会について説明をいただきました。また最後に、鐘ヶ江利常先輩（林学S34）より瑞宝双光章叙勲の報告をいただき、そのお祝いも兼ねた懇親会を開催しました。

40年前に初めてこの同窓会に参加した頃からの先輩諸氏が、今もお元気で参加していただけることに、また、少しずつですが若い参加者が増えてきた事に感謝した総会になりました。（山本泰嗣（農学S57））

## 鹿児島県支部



日 時 令和7年11月22日（土）  
 開催場所 ホテルタイセイアネックス  
 本部派遣 桑原 利彦 先生  
 参加人数 11名  
 実施事項 支部総会・懇親会  
 報告者 長谷川 信幸（製糸S54）

●幹事のコメント●

総会では、桑原名誉教授から、農工大統合報告書2025の内容も交えながら母校の近況を紹介していただきました。

その後、前年度の実績、7年度の計画、予算さらに次期代議員候補の選定などを協議しました。また、特に、同窓会として取り組める事業がないか意見交換しました。さらに交流会ではいきなり冬らしくなってきた寒さと旧交を焼酎で温め、次年度の再会と参加会員の拡大を祈って会を閉じました。

## 沖縄県支部



日 時 2025年5月31日（土）  
 開催場所 アイランド・グリルjimmy's那覇店  
 本部派遣 村上 尚 先生  
 参加人数 28名  
 実施事項 支部総会・懇親会  
 報告者 茂木 正徳（環保S54）

●幹事のコメント●

約10年ぶりとなった沖縄県支部総会は、盛況のうちに開催いたしました。支部名簿登録者145名中28名にご参加いただき（参加率約2割）、参加人数は過去最高ではないかとのことでした。

懇親会では、村上先生より母校の近況をご紹介いただき、また、ご参加いただいた皆様からも一言ずつ近況をご報告いただき、和やかな雰囲気の中で活発な交流を図ることができました。深く感謝申し上げます。

今後も、同窓生間の絆を深め、支部活動をさらに活性化させていきたいと考えております。

## 同好会だより



### 地域再生・地域活性化に東京農工大学の知的資源を活かすネットワーク

令和7年6月23日（月）50周年記念ホールにて総会と講演会を開催しました。

前年度総会報告に続き、小川和男編集長より『風の記録』第二版の編集経緯が報告され、対面・オンライン計14名の参加者と意見交換が行われました。

講演会では宮井迅吉氏が、東京高等蚕糸学校の出身の菊池邦作氏を紹介。菊池氏は戦前の弾圧下でも反戦を貫き、戦後は養蚕製糸業や政治の民主化に尽力しました。特に著書『徴兵忌避の研究』は、良心的兵役拒否の先駆けともいえるものです。世界的な戦争の危機が迫る今、「風の記録」の大先輩として氏の歩んだ道を紹介する意義は大きいと考え講演していただきました。

報告者名 淵野 雄二郎（農学S43）

### 農工音楽祭



令和7年11月15日（土）、学園祭期間中に軽音楽部のステージをお借りし、第11回農工音楽祭を開催した。教職員バンド（ちーむクロ）が昭和歌謡を演奏した。機材も軽音学部のお世話になり、軽音楽部のサポートなしには開催できず、深謝している。昭和歌謡を演奏し、学生も多数聴きにきてくれ、大変盛り上がった。学園祭期間中だったので一般の方の視聴も多数あった。

報告者名 佐藤 俊幸（共同獣医学科・教授）

### 東京農工大学技術士会



2025年5月千葉学長を訪問し、原稿執筆を依頼した。6月1日に幹事会（6名、WEB）を開催。7月の例会では、10周年記念誌に関する報告の他、中矢弘明氏が全国の土砂災害や日本ミツバチの飼育、鶴巻広一氏が原発津波防潮堤の問題について講演を行った。8月は農工大スキルアップセミナーに参加。12月10日には対面での幹事会（7名）

を実施。2026年1月、大学技術士会連絡協議会総会に参加。年間を通して「東京農工大技術士会、10周年記念誌」の募集と編集、東田編集長を中心に活動。2月の総会では渡邊勇樹氏「技術士活動、10周年記念誌投稿、星空案内人」、塚原道夫氏「林学からランドスケープ、樹木医、市民活動」の講演を行った。

報告者名 吉原 伊知郎（化工S51）

## 東京農工大学馬術部後援会



国枝栄調教師引退記念、馬術部全日本学生馬術大会3年連続の好成績及び4年生送別会の3つの祝賀会を開催しました。

2026年3月15日に掲題の3つの祝賀会を京王プラザホテルにて開催しました。国枝調教師は日本中央競馬会（JRA）通算1123勝、G1レース23勝、JRA G1最多勝馬・アーモンドアイ号と牝馬三冠馬アパネ号の調教など歴史に残るご活躍をされ、本学にも多大なご支援を賜りました。国枝さんの長年のご貢献に深謝し、今後の益々のご健勝とご活躍を心より祝福致しました。馬術部は、昨年までの3年間で全日本学生馬術大会総合馬術競技団体準優勝、3位、準優勝、及びMD障害飛越競技で河内悠太選手（地域生態システム学科）が個人優勝と歴史に残る快挙を達成しました。さらに、昨年の準優勝の立役者として活躍された伊藤誠純さん（共同獣医学科）の卒部を祝福しました。

報告者名 黒田 泰輔（獣医H17）

## 東京農工大学ワンダーフォーゲル部OBOG会



- ・2025/5/4～5/5：現役新歓集中式への参加（奥秋テント村）
- ・8/6：錬成合宿準備会での激励・差し入れ（工学部部室前）＊写真
- ・10/5：夏合宿後の現役主催交流会（吉祥寺）
- ・11/6：ハイキング&農工祭懇親会（景信山・国分寺）
- ・2026/1/19：現役部会への役員参加（農学部会議室）

報告者名 安藤 隆生（林学S58）

## 農工大軽音学部OB会



令和7年6月28日、国立「はっぼん」にて邂逅館オープンを記念して「邂逅館オープンライブ」を行いました。

- ・フォークバンド演奏
- ・ジャズバンド演奏
- ・ナターシャバンド演奏
- ・PPMバンド演奏

その時の映像を、YouTubeにアップしました。また、昨年連絡があったM. Kさんも今回から一緒に出演する事になりました。農工通信の記事がきっかけで、一緒に活動する事になりました。OB会の発足を機に、OB&OGの皆様との音楽を通じた輪を広げていきたいと思っています。今後、コンサートやイベント等を企画出来ればと思っていますので、OB&OGの皆様からのご連絡をお待ちしています。何卒よろしく願いたします。

報告者名 菅野 茂樹（織工S49）

## 風早会 (東京農工大学学友会ヨット部OBOG会)



ヨット部OBOGで構成する風早会は、会員の親睦と相互の発展、そして大学ヨット部への物心両面からの支援を目的に活動しています。

1. 現役部員は昨年度、春・秋インカレ決勝進出に加え全日本女子インカレにも出場し、今年度は全日本インカレ出場を目指して日々練習に励んでいます。部員数も増え、活動はますます充実しており、その姿はとても頼もしく感じられます。継続寄付型クラウドファンディングの開始やヨット部HPの刷新など、新しい取り組みも進んでいます。

2. 風早会ではご家族参加型のファミリーデーや新艇進水式、総会・忘年会、現役交流会、新会員歓迎会など年間を通じて多くのイベントを開催し、OBによる現役向け講習会も実施しました。また、現役部員のインカレや各種レースの援助・応援も積極的に行っています。

また月刊誌「Kazi」2026年5月号には『全国ヨット部名鑑「東京農工大学学友会ヨット部」』として大学ヨット部が紹介されています。来年度2027年はヨット部創部60周年記念大会を盛大に開催予定です。

報告者名 高橋 俊哉（生命H11）

## クラス会だより



各地で開催されたクラス会等の報告を随時受け付けております。開催後は、ぜひ事務局までご一報ください。いただいた報告は同窓会ホームページおよび『農工通信』に掲載させていただきます。皆様からの楽しいご報告をお待ちしております。

### 第1回養王田正文研究室同窓会



日 時 令和7年4月12日(土)  
開 催 場 所 キンプトン新宿東京  
クラス(卒年) 生命院H14~H19  
参 加 人 数 9名  
報 告 者 三澤 宣雄(生命院H15)

#### ●報告者コメント●

2024年度末でご退官されました養王田正文先生の新しい門出を祝して、2025年4月に第1回目の「養王田正文研究室同窓会」を新宿にて開催しました。その前の月に吉祥寺にて養王田先生のご退官記念祝賀会が盛大に開催され、その際に集まった研究室の黎明期に学生時代を共に過ごした有志数名で同窓会を企画した次第です。

3月の祝賀会に参加できなかった方々もお誘いしたところ、遠くは静岡から一泊覚悟で駆けつけて下さった方もいらっしゃいました。桜の時期に重なり、お花見も兼ねた楽しい宴席になりました。養王田先生からは毎年4月の第二土曜日にやりましょう！とご提案いただきましたので養王田研卒業生の皆様、ご都合が合えば是非ご参加下さい!!

### EA昭和58年同窓会



日 時 令和7年4月19日(土)  
開 催 場 所 日本橋「まえ田」  
クラス(卒年) 農工S58  
参 加 人 数 14名  
幹事・報告者 太田 和男、南木 好樹・南木 好樹

#### ●報告者コメント●

昭和58年に卒業、学びを共にした農業工学科の同窓会を開催しました。

一昨年11月に続き、還暦過ぎでの2度目の開催。前回、卒業後初めての開催にて顔認証が難しい友もいましたが、今回は皆、落ち着いた雰囲気。

今回、関東近郊の声掛けとさせて頂き14名の参加。遠方の友、ごめ

んなさい。EA58、皆、第2、第3の人生を謳歌、元気になっております。

趣味はゴルフ、釣り、スキューバダイビング、家庭菜園などさまざまにて、大学時代と変わらず、皆アクティブ人生を送っていますよ。

次はゴルフ大会やろうとの話もほぼ固まり、今後の楽しみも増えました。3次会まで語らいが続き、次の再開を約束。皆、少し若返ったの散会となりました。

### フォークダンス部OB会



日 時 令和7年5月3日(土)  
開 催 場 所 地鶏「匠」日本橋店(東京駅八重洲)  
参 加 人 数 15名(農工大10名、白梅短大5名)  
幹事・報告者 古川 誠(環保S52)

#### ●報告者コメント●

2年ぶりの開催となり、総勢15名のOBが集まりました。農工大フォークダンス部は、従来、小平にある白梅学園短期大学とパートナー校を組んでおり、今回は5名の白梅OBの方々にも参加いただき、当時の部活動や合宿の思い出、そして夫々の近況を語りあいながら和気あいあいとした雰囲気の中で3時間過ごすことができました。フォークダンス部員同士でご夫婦となった夫妻もご参加いただきました。半数以上の方が古希を迎えているのにも関わらず、ご自身の病気の話や介護の話がほとんど(?)でなかったのは、学生時代にフォークダンスで足腰や心肺機能を鍛えた効果だと思います。さらに、多くの方が現役で、仕事に従事していることにも驚かされました。

名残りは尽きませんが、来年度にもOB会を行うことを誓い、散会しました。フォークダンス部OBの方々は今後奮ってご参加ください。

### 農学部農業生産工学科S44年卒クラス会



日 時 令和7年5月29・30日(木、金)  
開 催 場 所 保養施設 熱海リフレッシュセンター  
クラス(卒年) 農工S44  
参 加 人 数 15名(内、夫人3名)  
幹事・報告者 藤木 信秀、日下 康彦、竹本 偉三郎・加藤 誠

#### ●報告者コメント●

当日17:00現地集合。当施設は、すでに3、4回、竹本さんの尽力により利用させていただいている施設で、みんな交通も勝手知ったる場所、時間通り集合できた。この2月には、同窓の馬場真嗣さんを

亡くしました。二年の間に、肺がん、前立腺がん、带状疱疹など、病気を抱える人が増えてきた印象である。これでは、クラス会を毎年開催し、互いの健康を励ましあわなければならないようである。また、スマホは重宝して使用しているが、十分使いこなせない人が多く、Lineのグループ「クラス会」を日下さんにお世話いただいて、全員が共有できた。これで、今まで以上に、情報交換が楽になった。

## 第5回西ヶ原寮義寮11号室同窓会



日 時 令和7年6月27日(金)  
開 催 場 所 山桜(兵庫県相生市)  
クラス(卒年) S37入学(化学・機械・電気)  
参 加 人 数 4名  
幹事・報告者 辻田 義治(化学S41)・立川 道雄(電気S41)

### ●報告者コメント●

今回は東京・名古屋2人・別府から集まり易い場所に設定しました。駅前のホテル集合、チェックインの時間まで併設の喫茶店で懇談、結果的に夕食会場へ出掛けた以外は同じ場所から移動せず喫茶店、時間によりレストランで昼食、解散時間まで過ごしました。前回と同じ長時間のミーティングでした。次回開催は東京と決めJR相生駅で別れました。

## 株式会社ニチレイフーズOB・OG懇親会



日 時 令和7年7月7日(月)  
開 催 場 所 JR千葉駅周辺  
クラス(卒年) 農学部・工学部(1989年～2024年卒業・修了)  
参 加 人 数 10名  
報 告 者 引原 翔平(応生S20)

### ●報告者コメント●

本学卒業生によるOB・OG会を開催しました。今回は10名が集まり、部署や世代を超えて和やかな交流が広がりました。ニチレイフーズでは、取締役専務、商品開発、研究開発、商品企画、事業創造、エンジニア、生産工場、人事等、多岐に渡る分野で本学OB・OGが活躍しています。学生時代の思い出話に花を咲かせながら、現在の仕事やキャリアについても率直な意見交換が行われ、貴重な時間となりました。社内に母校の仲間がいることは働く上での安心感につながり、互いを尊重し合うハミダス風土が、ニチレイフーズの魅力の一つです。

今後も継続して開催していきたいと思います。

## アメリカンフットボール部BLASTERS 創部50周年を迎えました



日 時 令和7年7月12日(土)  
開 催 場 所 アレグリア赤坂(港区赤坂インターシティAIR)  
クラス(卒年) アメリカンフットボール部BLASTERS  
参 加 人 数 119名(OB・OG 111名、現役部員7名、来賓1名)  
報 告 者 鳥居 稔(数情S61)

### ●報告者コメント●

アメリカンフットボール部BLASTERSは、2025年で創部50周年を迎えました。記念パーティでは119名の老若男女が赤坂に集まって盛大に開かれました。全員を一度に撮影できなかったため、年次で分けた3枚の集合写真となります。40周年の時の52名より参加者が増えて、会場変更が必要となるほどでした。

2026年のBLASTERSは、関東大学リーグ2部復帰を目指します(写真左上は2024年12月の2部3部入替戦でのOB・OGと父母会のスタンド応援姿)。

なお、連絡が取れなくなっているOB・OGがおられます。以下のアドレスにご連絡をお願いします。tuat-football@com.zaq.ne.jp

## S62卒農業工学科同期会 in 長野



日 時 令和7年9月14(日)～15日(月)  
開 催 場 所 長野県長野市  
クラス(卒年) 農工S62  
参 加 人 数 12名  
報 告 者 名 佐藤 欣久

### ●報告者コメント●

農工大で学びを共にした同期生が皆還暦を迎えたことから、約30年振りに同期会を計画。今回は、第2の人生で信州善光寺 福生院の住職になられた小松原さんのご協力のもと、長野市内での開催。北は北海道から西は福井、会に合わせ米国から一時帰国した友人ら12名が参加。時の流れは隠せず、一瞬「誰だ!」という友もいましたが、気

持ちは大学生当時のままに久しぶりの再会を懐かしみながら、皆で近況を報告。温泉にも浸かり2次会を兼ねた宿泊はお寺の宿坊で、楽しいひと時はあっという間に過ぎていきました。

老後のコミュニティの大切さを実感し、次回は福井での再会を約束して散会。今回参加できなかった友よ、次は是非!!

## 昭和61年度林学科同期会



日 時 令和7年9月20日(土)～22日(月)

開催場所 岐阜県

クラス(卒年) 林学S61

参加人数 6名

幹事・報告者 木村 洋

### ●幹事のコメント●

今回の恒例の同期会は、岐阜にて開催いたしました。長良川沿いの岐阜グランドホテルで集合しました。岐阜市内にてボーリング、パターゴルフ。夜は、柳ヶ瀬の歓楽街を散策しました。温泉に浸り、恒例の大宴会に突入いたしました。

全員元気に集まることが出来た事を感謝しながらまた、元気で会えることを願って散会いたしました。

## 工学部 数理情報工学科 2期生同窓会



日 時 令和7年11月1日(土)

開催場所 140周年記念会館エリプス

クラス(卒年) 数情S56

参加人数 22名

報告者名 宮永 左千夫、本間 幹男、田川 浩三

### ●報告者コメント●

今年は初めて母校で開催しました。数十年ぶりに訪れた母校は、当時空き地だった場所に建物が建ち並び大変驚きました。会場も綺麗で設備も充実しており、提供していただいた大学側に感謝しております。昨年に続いての開催でしたが、初めて参加した人もいて一年ぶりまたは数十年ぶりにお互いの状況を確認できました。今回は健康に関する話題が多くなり、みんな着実に高齢者の仲間入りをしていることを感

じました。二次会は東小金井駅前の居酒屋で行い、予定時間をオーバーして語り合いました。そして、これも当時と大きく変わった東小金井駅での散会となりました。

## 製糸学科46年卒クラス会



日 時 令和7年11月8日(土)

開催場所 工学部キャンパス エリプス3F

クラス(卒年) 製糸S46

参加人数 13名

報告者名 溝口 正伸

### ●報告者コメント●

昨年と同様エリプスでしたが、今回は3Fの会場にて、グリーンハウス様に料理や飲み物を注文し運び込んで頂きました。13名の参加は、昨年とほぼ同数で、山形、石川、和歌山、滋賀と遠路来場頂きました。

難波先生の乾杯の音頭でスタートをして、欠席者のコメント、参加者各自の近況報告を、飲みながら、昔を思い出しながら聞いていたらいつの間にか時間となり、記念写真を撮って、全員で二次会へ東小金井へ、そこで、三木さんのマジックを楽しんでお開きとなりました。次回もエリプスでの再会を約束して三々五々会場を後にしました。

## 電子工学科2期生(1973年入学)同期会



日 時 令和7年11月14日(金)

開催場所 響 品川店

クラス(卒年) 電子S48入学

参加人数 14名

報告者名 日野 勝久、茂澤 清行、目黒 洋、松岡 豊、石田 晃司

### ●報告者コメント●

2022年に引き続き、2025年に電子工学科2期生(1973年入学生)の同期会を開催しました。

初めての参加者や遠方からの参加者もいて、久しぶりの再会、近況報告、歓談など貴重で有意義な時間となりました。またすっかり変わった農学部、工学部の現在の構内の様子を写真で紹介し、長き月日の経過に思いをはせるひと時となりました。最後に次回開催までの健康維持を祈念し散会となりました。

## 昭和50年農学科卒業 同期会



日 時 令和7年11月14日（金）  
 開催場所 第1部：東京農工大学校内  
 第2部：北海道国分寺南口駅前店  
 クラス 農学S50  
 参加人数 17名  
 報告者名 加藤 毅

### ●報告者コメント●

昭和50年卒業、卒業後50年、昭和100年と三つの節目を同時に迎えたことを祝い、2年ぶりの同期会でした。第一部は、農工大学の荻原先生のご案内で、母校を見学。大きく変わった様子に皆、驚いていました。それでも、本館や農場など当時の雰囲気を感じる所も残っており、懐かしいと声をそろえる場面も。第二部は、北は北海道、南は九州と遠方からの仲間も出席。卒業50年を過ぎても、アルコールが入ると話題は農業に。各地で問題になっているクマや、米問題などで盛り上っていました。最後に、健康に気をつけて次回の開催を楽しみに散会しました。

## 植物防疫学科 昭和56年卒同期会



日 時 令和7年11月15日（土）  
 開催場所 東京都港区新橋  
 クラス(卒年) 植防S56  
 参加人数 9名  
 報告者名 川上 俊武

### ●報告者コメント●

令和7年9月下旬、卒業以来44年余りが経過した中、そろそろ同期会をやりたいね！との声がLineで会話していたメンバーからありました。さっそく同期会開催の件について連絡を取り合い、11月15日に開催日を決定しました。遠方から佐賀、富山、福島のメンバーを含めて9名が新橋の居酒屋に13時に集合。はじめ、マスクをしているメンバーの名前確認が出来ない場面もありましたが、マスクをはずすとみんな昔の面影がありました。まず、欠席者の情報を共有後、出席メンバーから近況を報告しました。3時間飲み放題のコースもあったという間に過ぎ、二次会はカラオケボックスへ。そこで集合写真をパチリ。みな同じだけ年を経ましたが、いい顔で楽しい一時を過ごすことができました。

## 卒業後40年初めてのクラス会



日 時 令和7年11月15日（土）  
 開催場所 東京農工大学農学部&府中駅ル・シーニュ銀蔵  
 クラス(卒年) 林学S60（S61）  
 参加人数 14名  
 報告者名 伴野 直明、池田 和弘

### ●報告者コメント●

卒業後40年の節目に急遽クラス会を企画したところ、14名の方にご参加いただきました。これは当時のクラスの約半数になります。一年遅れで卒業した留年組の3名も合流できました。開催のきっかけを作ってくれたのは、農工通信No. 106号に掲載された伴野直明君（S60卒）の寄稿文でした。この日は学園祭で、穏やかな秋晴れの中大勢の若者でにぎわう構内を散策後、府中駅ル・シーニュ銀蔵に移動し一次会となりました。懐かしの府中の地で旧交を深め、大いに盛り上がりましたが、学生時代の悪行?を大勢の前で暴露され、内心穏やかでなかった者もいたかと思います。クラス全員の近況も分かりました。二次会後街のイルミネーションに映えるけやき並木の下、次に会う約束と熱い握手を交わし雑踏の中解散しました。

## 林産学科 クラス会「7318会」



日 時 令和7年11月16日（日）  
 開催場所 上野 韻松亭  
 クラス(卒年) 林産S52（S48入学者・家族）  
 参加人数 14名  
 報告者名 前田 辰雄

### ●報告者コメント●

前回開催から2年が過ぎ去り、会員全員が古希を過ぎている。今回は第9回目の開催。前回開催時点で6名が鬼籍に入っていたがそれから増えていないことが一番嬉しいことだった。近況報告では恒例の病氣自慢（手術・通院・療養）があったが、幾多のハードルを乗り越えた自負・自信が伝わってきた。現役就労者～年金生活者各々会員の「日常生活工夫談」からは感心する内容が多くあった。共通点は「運動・趣味・交流」を実践しているという3点だった。会は記念撮影と大学学歌斉唱を行い終了した。解散後は上野公園内を散策したが碧空下での銀杏黄葉が見事であった。次回は2年後に「卒業50周年」を記念して開催する。（7318は共通の学籍番号）

## 機械工学科三期生 昭和40年卒 同期会



日 時 令和7年11月17日(月)  
開 催 場 所 四ツ谷 プラザエフ  
クラス(卒年) 機械S40  
参 加 人 数 15名  
報 告 者 名 松本 喜晴

### ●報告者コメント●

7つの研究室持ち回りの幹事役で毎年同期会を開催してきましたが、平均寿命を過ぎ39名の仲間の1/3が鬼籍に入り、幹事的人数が揃わなくなったこともあり、昨年通算25回目の同期会をもって中締めとなりました。

しかし昭和100年・戦後80年・卒業後60年の節目となる2025年を期して再度同期会を開催しようということになり、15名の仲間が四ツ谷に集まりました。

入学当時や学生時代の思い出から、卒業後年の振り返り、近況報告や健康問題などを語り合い、予定の2時間半はあっという間に過ぎてしまいましたが、これからも同期会を続けようと再会を約して散会となりました。

## 青木襄児先生を囲む会



日 時 令和7年11月23日(日)  
開 催 場 所 青木邸  
クラス(卒年) 旧植物防疫学科 防除生態学研究室  
参 加 人 数 青木先生と門下生16名  
報 告 者 名 上田 晃輔(植防S56)

### ●報告者コメント●

青木襄児先生は、今年10月に100歳を迎えられました。これを祝って門下生9名(S52～57年卒)が集いました。100歳の先生の身体を配慮して、青木邸に持ち込んだインターネット機材で先生と門人を結ぶTV同門会でしたが、同窓の消息や農工大の想い出話で大いに盛り上がりしました。また、会に出席できず手書きメッセージの寄稿だけの門人を合わせると先生含めて17名の会となりました。心配された先生の身体も至って若く元気で、次のリアル同門会を約束して散会しました。

## 44年ぶり再会・電気工学科同期会



日 時 令和7年11月30日(日)  
開 催 場 所 銀座ルート東京  
クラス(卒年) 電気S56他  
参 加 人 数 28名  
報 告 者 名 菅原 伸一、長田 幸一(電気S56)

### ●報告者コメント●

じっと見つめて、「あなた誰?」の掛け声で44年ぶりの同期会は始まりました。名札を見て、「え、おまえか」と気づき、会話は始まり、声、話し方、身振りは学生時代のままで、ふうっと昭和の面影、記憶がよみがえりました。2分間スピーチで自慢話、苦労話、健康話、近況話があり、「そうか、おまえもか! え、ほんと? すごい!」の共感を生みました。

同期50人中45人にあの手、この手で連絡を取り、一次会28人、二次会19人が出席した同期会は大変盛大で再会の喜びに満ちていました。これを機会に同期の絆は再び深まり、継続したコミュニケーションとなることを期待しています。

## 【応生/生物制御】 応用遺伝生態学研究室OB・OG懇親会



日 時 令和7年12月22日(月)  
開 催 場 所 JR国分寺駅周辺  
クラス(卒年) 農学部 2005年～2020年卒業・修了  
参 加 人 数 18名  
報 告 者 名 柘野 優輔(応生H22)

### ●報告者コメント●

ご退官された國見裕久先生、現研究室の仲井まどか教授にもご参加いただき、総勢18名の世代を超えた懇親会となりました。学生時代の写真を会場に投影し、研究室で過ごした日々を懐かしみながら、会場は終始和やかな雰囲気になっていました。

卒業生は農業企業、教育現場、自治体、大学職員、経営関連など多方面で活躍しており、それぞれの近況を聞くことができました。育児や新たな分野への挑戦も聞かれ、各々の歩みの多様さが印象的でした。

先生方も変わらずお元気な様子で、当時と変わらぬお話ぶりに一

同安心するとともに、大いに励まされました。今後もこのつながりを大切にしながら、継続的に開催していきたいと考えています。

## 電気工学科昭和49年入学及び 昭和51年編入学 同窓会



日 時 令和8年1月17日(土)  
開 催 場 所 農工大工学部内 140周年記念会館エリプス  
クラス(卒年) 電気S53 (S54)  
参 加 人 数 22名  
幹事・報告者 上原 郁夫、笠井 実、澤田 恭次、白石 秀雄、平田 吉広

### ●報告者コメント●

昭和49年入学および昭和51年に高専から編入学した同期による、卒業以来48年ぶりの開催となりました。多くの同期が古稀を迎えたことも、開催のきっかけの一つでした。入学年は前身組織の設置から100年目にあたり、電気工学科としては第13期生で、同期入学者は48名でした。今回の参加者は22名で、約50年ぶりの再会となり、顔を見てもすぐには誰だかわからない場面もありましたが、言葉を交わすうちに性格や当時の面影が次第によみがえってきました。大学工学部内でのランチ宴会形式で行われ、宴会終了後には大学構内を皆で散策しました。東小金井駅周辺も含め、卒業当時と比べて大きく様変わりした様子が驚く声が多く聞かれました。電気工学科棟の前にして「当時の建物がまだ残っている」「あの池に落とされたことがあった」など、構内を歩きながら50年前の思い出話に花を咲かせました。その後、余韻を残しつつ東小金井駅近くで二次会を行い、次の開催を約束して散会となりました。

## S47入学農学科同窓会



日 時 令和8年1月17日(土)  
開 催 場 所 50周年記念ホール  
クラス(卒年) 農学S51  
参 加 人 数 14名  
報 告 者 名 大伴 秀郎・青木 隆夫

### ●報告者コメント●

S47年入学農学科のクラス会は、当時助手だった鎌田先生、淵野先生をお招きして行いました。卒業したのがS51年すなわち1976年ですから卒業してちょうど50年の節目になります。当時の農学科は、北は北海道、南は沖縄(返還前)から入学した級友がいるように全国津々浦々の出身者が多く、今回もわざわざ京都と秋田からはせ参じてくれ

た級友がいました。クラス会は全員で近況報告、楽しく会食。少々飲みすぎた輩もありましたが皆さまのお陰で大変楽しく過ごせました。

鎌田先生、淵野先生、出来の悪かったわれわれを在学中にはご指導いただき、今回もお付き合いいただき、ありがとうございました。これからもよろしく願います。なお、25年後は無理でしょうが、もう少し年を経ず次の会を企画したいと思います。

## 農芸化学昭和46年入学生クラス会



日 時 令和8年4月10日(金)  
開 催 場 所 菜な(千代田区)  
クラス(卒年) 農化S46入学(農化S50、51)  
参 加 人 数 14名  
報 告 者 名 田中 規夫・寺岡 葉子

### ●報告者コメント●

前回から1年半ぶりのクラス会を開催しました。14名の同級生が駆けつけてくれました。今回は春の開催ということで、遠方の方の利便性を考慮して東京駅丸の内南口前のKITTEビル5階にある「菜な」に集合、それぞれの近況や今回欠席の同窓生の様子などを紹介して盛り上がりしました。約2時間の懇談の後、再会を約してお開きとなりました。

## 有馬先生を囲む会



日 時 令和8年4月25日(土)  
開 催 場 所 東京農工大 50周年記念ホール  
クラス(卒年) 植物栄養学研究室 OBOG  
参 加 人 数 49名  
報 告 者 名 伊藤(山谷) 紘子(生産H12)

### ●報告者コメント●

去る4月25日に開催いたしました「有馬先生を囲む会」は、農学部生物生産学科植物栄養学研究室の有馬泰祐名誉教授の門下生、総勢49名が集い、盛会のうちに終えることができました。当日は、有馬先生が本学に在籍された1984年度の卒業生から、最後の教え子となる2012年度の卒業生まで、実に28学年におよぶ門下生が世代を超えて一堂に会しました。有馬先生の「駒場小唄」に合わせて皆で手拍子を打つ時間は、まさに学生時代を彷彿とさせる温かなひとときでした。母校で結ばれたこの強い縁をこれからも大切に育み、また皆様と笑顔で再会できる日を楽しみにしております。

# 叙勲・褒賞受章にあたり

## 令和7年春の叙勲

### 叙勲受章にあたり

松永 是 (名誉教授)

Tadashi Matsunaga

令和7年度春の叙勲で瑞宝中授賞を拝受しました。これまでご指導いただいた先生方、先輩、一緒に研究してくれた同僚、後輩、学生に感謝したいと思います。

東京農工大学とのご縁が始まったのは、工学部資源応用化学科応用触媒講座の助教授として赴任した1982年、以来2017年に学長として退任するまで35年間の長きに亘りお世話になりました。着任当時の講座の教授は西村重夫先生でした。水素添加触媒の専門家で多くの業績を上げてこられた先生でしたが、助教授の私にはご自身の専門とは全く別の、生体触媒を中心に酵素や微生物の研究を自分の進む道として極めてみてはどうかと指導していただきました。西村先生はその後工学部長を務められ、1989年の博士課程の設置にも大きな貢献をなされました。また、我々を鼓舞して工学部に生命工学科（最初は物質生物工学科応用生物化学講座）を設置する後押しもしてくださいました。この間の経験が、この後の私の研究・教育活動への信念の礎となったことは言うまでもありません。

研究経歴に関していえば、東京農工大学に赴任する前は、米国フロリダ州にあるマイアミ大学海洋大気研究所の研究者として留学したことをきっかけに、海洋微生物や微細藻類の研究に携り、特にこれらの微生物による水素生成の研究を行っていました。東京農工大学に赴任後は、資源応用化学科、高分子工



学科、物質生物工学科、生命工学科に属し、微生物の研究を続けました。その努力が認められ、マリンバイオテクノロジーや磁性細菌研究で日本化学会学術賞や生物工学会賞をいただきました。キャリアの後半は、大学の管理運営に関わることも多く、2001年から2007年まで工学部長、2007年から2011年まで理事・副学長、2011年から2017年まで学長をつとめ、東京農工大学を大学院中心の研究大学にするために努力してまいりました。私の後も、2017年には大野学長が、今年の4月からは中村学長が、生命工学科から学長に着任し、学科および大学の発展に大いに期待しているところです。

2019年からは国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC) 理事長を拝命し、若いときから夢だったマリンバイオテクノロジーや地球環境の研究を推進してまいりました。総じて大変充実した研究・教育の日々であり、この叙勲を励みとして、今後も若い世代のためさらに貢献していければと考えております。

## 令和7年 秋の叙勲・褒章

### 叙勲受章にあたり

百鬼 史訓 (名誉教授)

Fuminori Nakiri

令和7年の秋の叙勲において瑞寶中綬章を拝受することができました。これも、一重に本学の教職員の皆様方のご指導及びご支援・ご協力の賜物と、心から感謝申し上げます。

本学のHPには、叙勲は「公務等に長年にわたり従事し、公共的な職務の複雑度、困難度、責任の程度な



どを評価し、重要と認められる職務をはたし成績をあげた方に授与される」とありました。そこで、僭越ながら私の本学における勤務生活について、簡単に紹介をさせて頂ければと存じます。

私は、昭和54年4月に東京農工大学工学部講師として着任し、平成25年3月までの35年間に在職致しました。当時は、一般教育部のあった府中キャンパスに研究室があり、保健体育教員として全学の1・2年次学生を対象に保健体育実技・理論を担当しておりました。その後、大学改革の一環として一般教育部が廃止され、私は工学部情報コミュニケーション工学科に配属されました。全学共通科目としてのスポーツ健康科目（実技）を担当しながら学科専門教育にも携わり、教授昇格後には大学院教育も担当いたしました。その後、学部改組により生命工学科に所属し、退職まで同様の職務を担当させて頂きました。

研究としては、着任後には末梢神経の筋支配に関する神経解剖学的研究、そして骨の発育に関する実験組織学的研究を行いました。さらに硬組織（骨・歯）の形態計測学的研究への三次元定量解析法の応用について考案し、博士論文に繋げることができました。

また、在任中を通して剣道実践に加えて“剣道を科学する”という姿勢を崩すことなく、剣道に関するバイオメカニクス的研究（剣道の運動技術のメカニズム解明）やスポーツ工学的研究（安全な剣道用具の開発・改良、安全規格の策定）など、実用的な研究を行って参りました。これらの成果は、剣道における安全対策として試合審判規則の改定につながりました。これらの研究に従事しつつ、日本武道学会会長（平成20年～令和2年）として学会運営に携わり、武道学の発展および国際化に寄与しました。

在任後期には、保健管理センター所長（平成16～18年）、教育研究評議員会評議員（平成17～23年）、そして東京農工大学理事・副学長（国際・広報担当）（平成23～25年）に就任し、管理運営にも携わることができました。このような貴重な経験をさせて頂いたことに、深く感謝申し上げる次第です。

結びに、本学の益々の発展を祈念申し上げます。

## 叙勲受章にあたり

川田 明宏（農工S51）

Akihiro Kawada

令和7年秋の叙勲で瑞宝小綬章を拝受いたしました。この榮譽を賜りましたことは、これまで長年にわたりご指導いただきました皆様のおかげと、心より感謝申し上げます。

私は昭和47年に農学部農業生産工学科農業土木専攻に入学し、農業水利学研究室で故鈴木重義先生並び



に故鬼塚宏太郎先生のご指導を受けました。院では鬼塚先生のご指導のもと、分岐管路系の制御に関する研究をさせていただきました。管路モデルのシミュレーションは当時の電算機で何時間もかけての処理を繰り返し行い、何とか論文の作成に漕ぎつけましたが、図表等の浄書を研究室で後輩の大里君に手伝ってもらったことが思い出されます。

昭和53年に農林水産省に就職し、本省をはじめ近畿、沖縄、東北、九州、北陸、関東の各地に勤務し、平成25年に退職しました。このなかで、入省4年目に沖縄の石垣島で2つのダム工事を実施する部署に配属となり、仮設工、道路工、橋梁、トンネル、グラウト工、試験湛水等を一通り担当させていただいたことが、以後の勤務に資する大変貴重な経験となりました。在職中の業務は、関係団体への研究出向や数度の短期海外派遣の期間を除き、ほとんど国営土地改良事業の事業管理及び新規地区着工の調査・調整でしたが、国の職員の皆さんはもとより、府県・市町村・土地改良区などの地元関係者の方々のご協力をいただき事業を進めることができたことは感謝の限りです。ほぼ2～3年毎に転勤・引っ越しを繰り返した生活でしたが、退職後も全国各地で在学・在勤当時の仲間や関係者の方々と歓談できることが何よりありがたく、この関係が私の財産であると思います。

現在、戸田建設（株）に在籍し、工事の受注者の立場で業務を行うほか、当社では数少ない農業土木出身として国の技術基準や農地関係法令等の照会・相談にもあたっています。

末筆ながら、再度皆様方への感謝を申し上げ、受章のご報告とさせていただきます。

## 叙勲を機会に顧みますと、

岩田 勝男（農工S53）

Katsuo Iwata

令和7年秋の叙勲にあたり、農林水産行政事務功勞として瑞宝小綬章を賜りました。お世話になった先生、友人、共に業務遂行にご苦勞いただいた皆様のお支えの賜物と感謝いたします。

農学部農業生産工学科を昭和53年に卒業しました。卒論は鹿島技術研究所で研究されていたLNG貯蔵タンク基礎地盤の凍結凍上現象に関して研究員の方から指示指導を受けたものでした。この為か卒業後の初現場は、寒い北海道三石町のダムでした。ダム建設は堤体盛土の他、多工種に携われるので、後の技術的判断の基礎となりました。土地改良事業の実施現場での嫌われもの3Kは、会計検査、河川協議、計画変更です。自分は農地や水利施設の整備計画作りに多く関わりました。斜里岳を望むオホーツク沿岸の大畑作地帯では、事業完了に伴う変更計画作りと自治体や農家の負担金対策に追われました。大規模農家の負担金額は少なくないにも拘わらず、高価なリールマシン散水機の導入数が事業完了が迫るにつれて大きく増加し、農家の生産意欲に驚きました。石狩川流域の大区画圃場の整備計画作りでは「60キロ1万円に耐える米作り」を合言葉としました。昨年来の高値米価ではさぞや安定経営ではと想像します。埼玉県荒川中流域の頭首工等の整備計画作りは、他省事業との調整があり、短時間での魅力ある計画作りが命題で、地域の困り事に取り組む共同事業を多く仕組みました。調査1年、全体実施設計半年での着工という最短期間の事業着工と思われます。この頭首工は関越道花園IC手前の荒川を渡る時、右側に見えます。夫々の計画が実際形あるものとなったのは、引き継いだ方々のご尽力によるものと感服いたします。

さて、叙勲にあたり頂いたお言葉の結語は、引き続き頑張るようにとの趣旨でした。一瞬 えっ、まだ！と、たじろぎましたが、後輩の皆様の現場仕事が生かされ、少しでも円滑に進むよう現勤務を通じて協力できれば、報恩の一助になるかなと思っています。



## 褒章受章のご報告

有江 力（名誉教授）

Tsutomu Arie

令和7年秋の褒章において紫綬褒章を拝受する栄に浴しましたので、ご報告申し上げます。

同年11月12日、ホテルニューオータニ・鶴西の間にて文部科学省主催の「勲章・褒章伝達式」が執り行われ、中村裕之副大臣より褒章および章記を伝達いただきました。続いて皇居・豊明殿に参内し、天皇陛下にご拝謁の機会を賜りました。

紫綬褒章は「科学技術分野における発明・発見、学術、スポーツ・芸術文化分野における優れた業績」を対象とするものとされております。学部4年生として研究室に所属して以来、43年にわたり取り組んできた研究活動を評価いただいたことは、身に余る光栄であり、深い感慨を覚えております。

とはいえ、この受章は、東京農工大学をはじめ、前職である理化学研究所、東京大学、Cornell大学、さらには国内外の共同研究機関における指導教員、上司、同僚などの研究者の皆様からのご指導・ご支援の賜物です。また、多くの学生諸氏とともに研究に励んできた日々が、私の研究を大きく前進させてくれました。これまで賜りましたご厚情と真摯な議論に、改めて深く御礼申し上げます。

受章に際して示された総評では、植物病理学分野において、重要な土壤伝染性植物病害を対象に、発生生態、発病メカニズム、診断・防除技術の開発を、生物学・分子生物学・ゲノム科学など多様なアプローチで進め、病原性進化メカニズムの解明や識別技術の確立、生物防除技術の提案など、植物防疫の高度化に寄与したとされています。特に、バナナ萎凋病（パナマ病）のパンデミックに関する研究や、土壤伝染性植物病原菌の病原性メカニズムの分子生物学的・ゲノム科学的研究および土壤伝染性植物病原菌の病原性進化・分化に関する研究をご評価いただいたものと理解しております。

私は令和8年3月をもって本学を定年退職いたしましたが、引き続き進行中のプロジェクトを通じ、今後も微力ながら社会に貢献できればと考えております。今後とも変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。





# 退職にあたり



## 有江 力

*Tsutomu Arie*

理事



2000年に本学農学部応用生物科学科に助教授として着任して以来、瞬く間に26年が過ぎました。この間、大学の法人化と大学院大学化を経験し、2010年からは教授、2013年からは評議員・農学副部長、2020年からは理事・副

学長を務めさせていただきました。

2016年に農学部本館の改修と展示室整備に携わった際、1950年頃に正門から本館を撮影したモノクロ写真を見つけました。本館前のクロマツは現在とほとんど変わらぬ姿でしたが、本館へ続く並木のケヤキは細く若く、まだ高さ5mほどでした。それからおよそ80年、ケヤキは立派な大木となり、日々この下を通う学生や教職員を静かに見守っています。小金井キャンパスのケヤキも同様に成長を重ねてきたようです。四半世紀にわたる本学での勤務の間にも、ケヤキは気付かぬうちに成長していたのでしょう。本学もまた同じように成長の歩みを進めてきたのだと思いますし、その一端に関わることができたのであれば、これに勝る喜びはありません。

この間、多くの教職員、学生の皆様に支えていただきましたこと、心より感謝申し上げます。教職員・学生の皆様、本学、そして同窓会のさらなるご発展を祈念いたします。

## 伊豆田 猛 (環保S59)

*Takeshi Izuta*

農学研究院 教授



1980年（昭和55年）年4月に本学農学部環境保護学科（8期生）に入学し、学生（9年間）と教員（37年間）として合計46年間も府中キャンパスに通い続けました。学生時代は、大学教員ではなく、ロックミュージシャンになり

たかったので軽音楽部のバンドで作詞・作曲とギターを担当していました。この度、定年退職いたしますが、

環境保護学科46年生としてやっと本学農学部を卒業させていただくという感覚です。私は、府中キャンパスの風景、自由な雰囲気、少し地味だけどまじめで優秀な学生たちと教職員の方々が大好きなので、まったく飽きずに46年間も楽しいキャンパス生活が送れました。2026年4月からは、特任教授として科研費の研究を続け、非常勤講師として講義を行います。大変充実した教育と研究の機会を与えていただいた皆様に心から御礼申し上げます。長い間、本当にありがとうございました。今後とも、よろしくお願いいたします。

## 田中 あかね (獣医H7)

*Akane Tanaka*

農学研究院 教授



本学農学部獣医学科を卒業、続いて岐阜大学大学院連合獣医学研究科にて博士課程修了後、平成17年7月に、本学農学部獣医学科の助教授として着任してから、21年間にわたり大変お世話になりました。研究では、マスト細胞

の増殖や分化に関する研究に加え、アトピー性皮膚炎の疾患モデル動物を用いて、病態解析や創薬に関与する機会に恵まれました。また日本中央競馬会との共同研究など、馬科学の研究にも携わることができました。学内では、学科長、保健管理センター長、農学部教育委員会委員長、学生生活委員会委員長などを務めましたが、特にコロナ禍では、当時まだ普及していなかったオンライン授業の立ち上げに追われたのを覚えています。退職後も、日本学術振興会、科学技術振興機構、大学基準協会、地方競馬全国協会などで様々な審議会に参加する傍ら、自身の夢だった馬の牧場で、馬たちの健康管理に携わる予定です。末筆ながら、本学の益々の発展と会員の皆様のご健勝をお祈りいたします。

## 福原 敏行

*Toshiyuki Fukuhara*

農学研究院 教授

私は、平成2年2月1日に一般教育部生物学教室に助手として奉職、平成7年4月に農学部応用生物科学科に移籍、計36年間東京農工大学にお世話になりました。



東京農工大に赴任する前は「東京」という名前から大都会のキャンパスをイメージしておりましたが、赴任してみるとキャンパスは緑が豊かで、府中キャンパスの馬場の周辺には野良ニワトリが自然繁殖しておりました。田舎者の私の東京＝コンクリートジャングルという先入観は、良い方に裏切られました。学生は真面目で優秀な学生が多く、彼らに研究を助けていただきました。農学部先生方は、理学部出身の私を快く受け入れていただき共同研究もさせていただきました。私が無事定年退職できますのも、学生の皆様や諸先生方に助けていただいたおかげだと思っております。心より感謝申し上げます。

藤田 欣也

Kinya Fujita

工学研究院 教授



改組したばかりの工学部情報コミュニケーション工学科に1999年に奉職して以来、27年間農工大にお世話になりました。ちょうど赤ん坊が生まれてから博士課程を修了するまでの年数で私自身も卒業を迎えることに、不思議な感慨を覚えています。

思い返してみると、農工大の学生諸君の真面目さにはあらためて感心します。私は人と情報機器を扱うヒューマンインタフェースを専門としてきましたが、研究室の皆さんの丁寧な参加者実験なくして研究は成立

しなかったと思います。本当に感謝しています。  
農工大の良いところは研究アクティビティの高さをはじめたくさんありますが、私は風通しの良さを挙げたいと思います。今日まで気持ちよく働くことができたのも、ひとえに教職員の皆様のおかげです。心から御礼を申し上げます。  
4月からは私大教育学部の教員としてもう一度ゼロから教員生活を始めます。同窓生の皆様のますますのご健勝と御発展をお祈りいたします。

本郷 智子

Tomoko Hongo

グローバル教育院 教授



2007年に国際センター（現：グローバル教育院）に着任しましたが、留学生センターが設立された1994年から非常勤講師をさせていただいていましたので、東京農工大学には31年お世話になったことになります。その間、日本語教育・国際教育を通して、多くの留学生、日本人学生の皆さんと共に学ぶ機会をいただきました。多様な文化背景を持つ方々から気づかされることばかりで、このような仕事をさせてくださった諸先輩の先生方、同僚の皆さま、事務の方々に心より感謝申し上げます。世界状況は不安定で先行きが見えませんが、本学がこれからも留学生支援に力を入れてくださることを願ってやみません。そして、農学・工学を専門とする研究院大学として国際的に益々の発展をされますようお祈りいたします。

定年退職者のお知らせ

本学在職中に同窓会活動に多大なご協力をいただいた下記の先生方が、令和9年3月で定年を迎えられます。

|       |                        |        |           |
|-------|------------------------|--------|-----------|
| 戸田 浩人 | 農学研究院 教授               | 池田 浩治  | 工学研究院 准教授 |
| 降旗 信一 | 農学研究院 教授               | 香取 浩子  | 工学研究院 教授  |
| 山形 洋平 | 農学研究院 教授               | 齋藤 拓   | 工学研究院 教授  |
| 横山 岳  | 農学研究院 教授               | 中條 拓伯  | 工学研究院 教授  |
| 渡邊 裕純 | 農学研究院 教授               | 並木 美太郎 | 工学研究院 教授  |
| 本林 隆  | 農学部附属FSセンター 教授         | 原 伸生   | 工学研究院 教授  |
| 野村 義宏 | 農学部附属硬蛋白質利用研究施設 教授     | 室尾 和之  | 工学研究院 准教授 |
| 秋澤 淳  | 工学研究院 (生物システム応用科学府) 教授 | 山井 成良  | 工学研究院 教授  |

(五十音順)

# 同窓生からの寄稿文



## わがクラスの人々（その2）

池田 和彰（農学S39）

農工通信  
寄稿ゆき

今回はすでに逝った6名の友について話そう。

まず、わずか37歳、幼い2人の子を残して亡くなった岡本利高君。植物病理、宮澤賢治風にいえば植物病院の植物医師を目指して農工大に入学した。クラスの兄貴的存在で、1960年安保闘争でも皆に声をかけて連日、国会デモに出かける。卒業後は農林省に入り東北農業試験場で働いた後、スリランカに5年間派遣され、当地の農業気象的データの蓄積と整備を行って帰国。この業績はスリランカからの留学生も認める。

つぎは、65歳で亡くなった坂神泰輔君。昆虫少年だった彼は「虫屋」としてそのまま農工大に入り、すぐに日高敏隆先生の研究室に入り浸った。4年生のときには捕虫網を持ってインドネシアに渡ったほどだ。卒業後も「虫屋」として農林省に入り、園芸試験場、東北農試ほかで果樹の害虫の生態を明らかにしながら、「虫屋」としての生涯をまっとうした。

一方、70歳で亡くなった温厚な木下隆雄君は、虫ではなく植物に詳しかった。数人で行った尾瀬では、木下君の解説で高山植物を堪能、すばらしい旅となった。園芸学を専攻した彼は卒業後やはり農林省に入り、野菜栽培の生理生態を究めながら東海近畿農試、農事試験場、中国農試等を経て茶業試験場で定年を迎えた。科学論や技術論など哲学的な側面にも造詣が深かった。

81歳で没した寺門和也君。作物学の専攻で牧草を勉強。彼のアルバイトは立川の病院に泊り込み、夜、急患があるとスクーターで医師を迎えに行くというもので、かなりの実入りだったようだ。のちの彼の連れ合いは、その病院の看護師さんだったという。卒業後は都市農業のため、東京都農業試験場で働きとおした。

その翌年82歳で亡くなった安部言思君。クラス一番の美少年で、農工祭でクラス上演した農村劇のヒロインを引き受けてくれた。園芸学を専攻。卒業後は農文協に在籍した後、後ろ髪引かれる思いで山口県長門市仙崎の青海島に帰郷。代々続く名門の大みかん農家で、その後継ぎとしての修業のためだったようだ。

同じく82歳で没した下弘明君。農業問題に強い関心を持って入学。マルクス経済学にも早熟で、クラス読書会のテキスト、大内力『日本資本主義の農業問題』は彼の提案だ。また、全学連中央ではブントが登場し

て、共産党による学生運動の支配から脱したことも教えてくれた。作物学専攻で、卒業後は岩手県の農業改良普及員となって全県下の農村めぐり、生涯を閉じた。

## 旅に出よう

服部 武弘（農工S39）

農工通信  
寄稿ゆき

皆さん、こんにちは。いかがお過ごしですか？私は、80才を過ぎ日々を元気に過ごすために色々（ストレッチ、筋トレやラウオーキング、ジョギングなど）と時間をかけている毎日です。いにしえの人々が命をつなぐために一日中山野を動き回っていたように。

先だって新聞で知ったんですが、現生人類が30万年～20万年前頃アフリカ中部で発生し、10万年前頃アフリカ大陸を出発し、世界各地に広がっていった。日本には3万5千年～3万年前頃に到達したらしい。さらに南アメリカ最南端付近には1万4千年前頃に到達したとしています。

これを知って人間は本来的に旅するDNAが身体にビルドインされているのかと感じました。同時に私の旅好きが未だ続いているのはこのお陰だと納得しています。

さて、私が農工大学に入学した頃は北海道、下北半島、能登半島、紀伊半島や四国地方などは日本の中でも未踏地の感覚で、その地を旅行するのが大学生の“箔付け”になっていました。勿論私も山登りのかたわらそれらの地域を観光しました。今なら海外旅行になると思いますが、隔世の感があります。そのお陰か今、旅は私にとって健康の糧です。しかし、この齢になると旅に出る気持ちはあっても中々行動に移せません。

旅の立案に旅行案内書を使いますが、『地球の歩き方』や『るるぶ』でなく『土佐日記』、『東海道中膝栗毛』、『奥の細道』ちょっと変わったイザベラ・バードの『日本奥地紀行』そして司馬遼太郎の『街道を行く』など紀行作品が役立つと思います。作者が当時見た風景や人々の暮らしや実感したことを今見ている自分の思いと比較出来より深い印象を得ることが出来ると思います。

この齢になると旅に出ようと思っても遠くへ行く決断は中々出来ません。まずは、自分が住んでる市町村の観光巡りをやってみたらいかがでしょうか？そして、少しずつ遠方に伸ばしていくと旅慣れしてきて旅に出

ることが楽しくなってきますよ。できるなら、どなたか農工大学同窓会のホームページに旅企画の窓口を開いてくれたらありがたいんだが!!!

## 「報恩感謝」

前之園 孝光（獣医S44）

農工通信  
寄稿ゆき

1. 昭和44年に全国酪農業協同組合連合会に就職、臨床獣医師として4年間勤務後、千葉県庁に昭和48年（1973年）入庁。
2. 酪農試験場での10年間の勤務中は、「乳牛の分娩前後の飼養管理」を中心に研究をしました。TMR（Total Mixed Ration：粗飼料と濃厚飼料、微量栄養素などを適正な割合で混合したもの）の研究成果を1983年（昭和58年）3月の日本畜産学会第74回大会日本畜産学会などで発表致しました。これがTMRの日本で初めての学会発表だったそうです。これにより数段、酪農家の飼養管理が向上しました。研究内容は、『Dairy Japan』：「フリーストールとコンプリートフィード」（1984, 6）、「TMRシステム」（1989, 10）、『デーリイマン』：「省力・高生産への対応」（1990）、『酪農大事典』：「分娩前から分娩直後にかけての飼料給与」（2011, 3農山漁村文化協会）などにも執筆し、県内はもとより全国各地からも依頼があり、講演して参りました。
3. 八千代市役所に出向して農政課長として3年間、市街地の酪農家の夷隅地域への移転、農免道路の用地買収、水田の基盤整備事業なども実施しました。
4. 農林部農業改良課では、農業改良普及員を指導する立場の専門技術員を通算10年間。「牛肉の自由化」の荒波の中で厳しい状況に対応するために「肉用牛技術必携」「酪農技術必携」を企画、執筆、編集しました。BSE（2001年）対策では、風評被害で牛肉が売れなくなり肉牛農家の経営が悪化しました。東京大学の小野寺教授が、日本人に感染する可能性は「30億分の1」だと説明しましたが、マスコミは、なかなか発信しなかったように思えます。
5. 「日本酪農発祥の地・嶺岡乳牛研究所」時代は、優秀な雌牛（ドナー）から受精卵を取り酪農家に配布するなど育種改良に力を入れ、ドナーの選定・購買にアメリカ、カナダに出張しました。嶺岡乳牛研究所長を最後に平成19年（2007年）3月定年退職致しました。
6. 先輩方の配慮により千葉県畜産協会、千葉県酪農業協同組合連合会に勤務しました。千葉県酪連時代の2011年、東日本大震災では停電の為、酪農家は搾乳機器（ミルカー）などが稼働できず大変でしたが、皆様の努力で今日まで酪農業が持続していることに敬意を表します。

「牛乳は太陽と土の恵み」「食は命」「医食同源」「食は楽しみ」ですね。

（記2025年10月29日）現：千葉県立農業大学校、畜産学概論・外部講師



執筆した本（共著）など約30

## 東京農工大学を卒業して55年

花輪 正明（農工S46）

農工通信  
寄稿ゆき

農工大学を卒業し、就職し気が付くと勤続55年になっていました。そこで現在の私と農工大学との関係を書かせて頂きます。塩野義製薬の本社は大阪にあり関西企業です。また、私は塩野義社員ではありますが、大阪大学の招へい教授も拝命しており、大阪大学の関係から、バイオコミュニティ関西のアドバイザーにも就任しています。バイオコミュニティ関西には分科会として「バイオマス分科会」があり、その分科会のリーダー機関はなんと農工大学で、代表者名は学長の千葉先生、分科会のリーダーは、製糸学科から高分子工学そして生命工学と科名を更新してきた、その生命工学の養王田教授です。学長の千葉先生は私と同じバイオコミュニティ関西のアドバイザーに就任しており、その関係から卒業して55年になる現在も千葉先生とは交流を持たせて頂いています。また、養王田先生にお願いし、生命工学院卒の浅川さんをご紹介いただき、塩野義製薬に入社頂き、彼は本社のデジタルマーケティング推進室で活躍しています。農工大学の養王田先生が、バイオコミュニティ関西のバイオマス分科会長をされていることから千葉学長とも関わりを持て、なんと奇遇かと思うところです。また、私の家は京王線北野駅が最寄り駅で、北野駅から府中駅までは京王線で14分と、家から農工大学は近く卒業後も府中キャンパスには頻繁に出向けています。農工大学を卒業し、関西企業に就職しつつも入社後3年間は水戸営業所勤務がありましたが、その後52年間は東京支店勤務で、家と大学は近く、私と農工大学はとても身近な関係にあります。製糸学科卒業で製糸学科と全く関係のない製薬企業に就職し、しかもその製薬企業が大阪であるが故、バイオコミュニティ関西のアドバイザーに就くこ

とができ、そのバイオコミュニティ関西に、関西所在ではない農工大学がかかわっているとは、なんと我が人生と農工大学がこうして、身近に結ばれており、うれしい限りです。最後に、私の上司の、上司の、さらにその上の上司である医薬開発本部長の上原さんは、農工大獣医H14年卒ですから私の31年後輩、加えて社長室長で広報部長の京川さんは、応用生物(院)H6年卒で、23年後輩であり、こうして我が塩野義マン人生では思いもよらぬ関りを農工大学同窓生とも結ばれており、「我が人生悔いなし」を感じているところです。

## 「地域のボランティア活動の話」

三木 茂 (製糸S46)

農工通信  
寄稿ゆき

早いもので現役を終えて10年の歳月が過ぎ今年で傘寿(80歳)を迎えます。今日まで大きな病気もせず、平穏な日々を過ごせたことに私を授けてくれた親への感謝を禁じ得ません。

その恩返しのつもりで現在は地元・「杉並区いきいきクラブ連合会」という4000人規模の高齢者団体の副会長を務める傍ら地元の老人クラブの育成にも励んでいます。毎朝、近所のラジオ体操に始り時に町の清掃作業、皆をひきつれての歩こう会、各種スポーツ競技にも参加、毎月の会報の発行、福祉大会の企画、実行に協力し地元の絆作りに励んでいます。

そんな事で現役時代には想像もつかなかった程、多忙ながらも充実した日々を送る中で得た気づきを少しお話致します。

## 「老人会」の意外な実情

当初、私はこの活動を「2～3年の奉仕のつもり」で深く考えずに引き受けました。いざ中に入ってみると会員の約8割が女性です。現役を終えた男性陣はなかなか地域に溶け込んで来ないのが実情です。また昨今の「老人会」の運営は決してのんびりした団体ではありません。区や都の行政的やり取り、他区との情報交換などパソコン、スマホを駆使した業務が不可欠です。今や辞めるに辞められない緊張感のある毎日です。

## 「忙しさ」こそが健康の秘訣

ところが、この「休む暇もない日々」が意外な副産物をもたらしてくれました。

私も含め77歳～94歳迄の10人の幹部は全員が健康で認知症の兆候もない。他の区の役員の方々もほぼ同様です。日々、人に接しスケジュールに追われる生活こそが、心身の健康を維持し長生きをするためにいかに大切であるかを身をもって教えて貰いました。皆様におかれましてこれからの生き方のヒントになれば幸

いです。

## 母校への感謝と回想

アナン・ラックパイトゥーン (機械S47)

農工通信  
寄稿ゆき

東京農工大学で過ごした日々を振り返ると、母校への尽きることのない感謝の気持ちが胸に込み上げてまいります。卒業生としてこのご恩にどのように報いることができるのかを考えたとき、私にできることは、タイと日本を結ぶ架け橋となり、両国の相互理解と友好の発展に微力ながら貢献することであると感じております。

1966年10月22日、私は羽田空港に到着し、初めて日本の地を踏みしました。ホテルへ向かう途中、夜の東京の街並みが非常に明るく整然としていたことに大きな驚きを感じました。当時のバンコクはまだ街灯が少なく、東京の都市整備の進歩に深い感銘を受けたことを今でも鮮明に覚えております。

1968年、東京農工大学に入学しました。当初は日本語が十分に理解できず、授業についていくのに苦労しました。オリエンテーションの際、先生から「理解できましたか」と尋ねられ、私は思わず「わかりません」と答え、教室が笑いに包まれたことも今では懐かしい思い出です。二年生までは府中キャンパスで基礎科目を学び、三年生から小金井キャンパスへ移り、工学部機械工学科で犬養健教授のご指導を受けました。また八幡先生にも多くの温かいご指導をいただきました。

在学中、先生方や友人たちはいつも私を気遣い、学習面でも多くの助言と支援をくださいました。自宅でタイ料理を振る舞うこともあり、友人たちは喜んでくれましたが、「辛すぎる」と言われることもありました。また当時の講義棟には石炭ストーブが置かれており、暑い国から来た私はその近くに座っていたため、石炭が燃え尽きると友人たちから声をかけられ、石炭を補充する役目を担っていたことも懐かしい思い出です。

1975年に帰国後は三菱商事バンコク支店や三菱重工業バンコク駐在事務所などで勤務しました。2022年には王室後援タイ国元日本留学生協会(OJSAT)の会長に任命されました。本協会は1965年にタイで初めての日本語学校を設立し、開校式には秋篠宮殿下がご臨席くださいました。また当時、本協会は象の赤ちゃん「メナム」を日本へ献上し、上野動物園で大切に飼育されました。

大学時代の友人たちとの交流は今も続いており、タイで再会することもあります。現在81歳となりましたが、日本は私にとって生涯愛し続ける大切な国であり、母校への感謝の気持ちはこれからも変わることはありません。

## 「ななじゅう会—2」 (前田君(獣医S48)が参加)

原 啓志 (林産S48)

農工通信  
寄稿仲き

農工通信に寄稿してから1年が経った。農工通信「読んだよ」との声もいただいた。嬉しいことだ。

100本ほどある柔道の技の一つに、相手を前方に崩し、右脚後ろ腿(もも)で相手の内腿(もも)を払い上げて投げる豪快な技がある。この「内股(また)」を武器の一つとしていた同期の前田康夫君が、富山から「ななじゅう会」に初めて参加した。

彼は数年前からパーキンソン病に罹っている。富山県出身で東京農工大獣医学科を卒業して県に就職して、現在も富山県に住んでいる。奥様やお嬢様が車いすを押して参加してくれた。言葉は少なくなったが、昔ばなしにも加わり、笑顔を見せて、懐かしかった様子だった。相変わらず、現役の頃の三織維大の大会や国公立大の大会での話で盛り上がった。一発できれいに思う技が決まって、一本取ったという話もあり、勝利のシーンは夫々の記憶の引き出しに大切にしまっているようだった。

話題は、農工祭の模擬店にも及んだ。柔道部は餅を杵でついて(力だけはあった)、ぜんざい(汁粉)を販売した。その餅が良いこと、小豆のおいしいことで評判だった。昨年の農工祭では残念ながら出店の抽選に漏れたようで味わうことが出来なかったと先輩の一人が言っていた。その汁粉は渋切りした小豆を煮て、砂糖を加えて作るし、もち米も一晩水に浸け、冷やかしたものを蒸して、ついて作った。ここでも前田君は子供の頃に覚えたようであるが、差配をしてお汁粉に仕上げた。冷やかすという言葉聞いたのも彼からで、水に浸けることを意味することを初めて知った。

今年も皆で集まり、語り明かした。参加メンバーも多分に漏れず、皆そこかしこが傷んでおり、心臓の手術などのために3名が欠席となったが、今年は全員参加することを期待する。

ななじゅう会へのご連絡はsna43948@nifty.com(溝口(製糸S46))をお願いします。



## S53卒・生産工 卒業旅行の思い出とin新潟

宮里 圭一 (農工S53)

農工通信  
寄稿仲き

新潟市内から車で1時間弱、弥彦温泉に全国から12名が集まりました。

2018年に千葉県一宮で9年ぶりに集まり、毎年全国でという声が上がりましたが、コロナ禍もあり、2023年12月に東京で再会、改めて同級会で全国行脚することとなり、一昨年の函館・青森2泊3日に続き、昨年は新潟での開催となった次第です。

当日は夕方5時頃から雨が降り始めましたが、翌日は、お天気に恵まれ、スカイツリーと同じ634mの弥彦山から日本屈指の穀倉地帯・越後平野、世界遺産金山の佐渡島を臨みました。その後、魚のアメ横と言われる寺泊魚市場で昼食・見学、最後は新幹線燕三条駅近くの地場産センターで金物を仕入れるなど満喫していただきました。

前日からゴルフ場を2まわり楽しんだり、カヌー持参でソロキャンプ、川下り、トレランコースを満喫したり、解散後、連れあいと電車旅を続けたりと同級会だけでなく、それぞれの秋を感じていただけたのではないかと思います。来年は関東方面、再来年は京都周辺で開催することを決め、再会を誓いました。

50年近く前、大学4年になった時、中学校の時のように修学旅行、というより卒業旅行をしようということが決まり4月から毎月お金を積み立てることとしました。月に3千円だったのか5千円だったのか覚えてはいませんが、そのお金をもとに3月に伊豆大島に卒業旅行をしました。写真撮影のために紙で横断幕を作り、あちこちで写真を撮りながらの珍道中、羽田空港で通路を塞ぎ、怒られたことを思い出します。私を含め飛行機には乗ったことがない者が多く、飛行機に乗ること・近くて運賃が安いことも行き先を決定した要因だったと思います。帰りは船中一泊のフェリーでした。

写真の横断幕は、卒業旅行時の紙の横断幕を当時の製作者が丈夫な布製に換えて作製してくれたものです。クリーニングをしながら大切に引き継ぎ、来年以降も全国を回って行きます。



## 同行二人

奥山 武彦（農工S54）

農工通信  
寄稿ゆき

コロナ禍に揉まれて2021年に山形大学を退職したのを機に四国八十八ヶ所霊場遍路を始め、足掛け5年で結願を果たすことができました。動機のひとつは、昨今の「タイパ」風潮に疑問をもち、自然な時間の流れに浸ってみたいと思ったことです。1,200kmともいわれる全行程を歩きとおす自信はないので、鉄道やバス、タクシー、ロープウェーなど使えるものは使い、歩いた距離は250kmくらいだったと思います。人口減少地域では減便の末に廃止された民営バス路線をコミュニティバスで代替し、さらにデマンドタクシーに、そしてボランティアの「交通空白地有償運送」へと切り替える現実を目の当たりにしました。不自由なく利用できる都会の交通と違い、運行ダイヤに合わせて行動するために、インターネットで調べられる時刻表と首っ引きでスケジュールを組み立てることが出かける前の頭の体操になりました。しかし、疲労しながら無心に歩き続けたり、駅やバス停で待つ時間はロスではなく、じっくりと自分と対話する貴重な機会となりました。夕日背に半歩先行く巨人かな

讃岐平野に入り、東進していた時に浮かんだへぼ句です。ひとりの道中でもお大師さんが寄り添ってくれることを「同行二人」といいますが、この時は巨人＝お大師さんの影かと思い、この句になりました。結願後に振り返ってみると、影は夢中で歩んでいる時には気づかなかった自分の姿や内心にあるものにすぎなかったのです。遍路には札所の巡り方や服装などにmustはありません。自由なのです。地元の方が下さるお接待には素直に感謝します。誰かが供えてそっと周りを照らしていた小さなろうそくが半ばで消えているのを見て人生のはかなさと重なり、灯してあげたりしました。

寺社のお参りは、往々にして自分の欲への神仏の加護を期待する気持ちがありますが、巡礼の自由な長い時間と体験を経て、自分の中に伏在する思いにも向き合い、さらに努めることで自身の向上を図りたい気持ちになりました。



地球が丸く見える高知県足摺岬にて

## ボッチャ、モルックを楽しむ

須藤 晃（植防S58）

農工通信  
寄稿ゆき

3月1日、府中キャンパスの武道館とその前庭でボッチャとモルックを楽しむ東京都支部のイベントがあり、参加しました。30代から80代までの8人が集まりました。モルックはやったことがあるのですが、ボッチャは初めて。この日は春のような陽気の中、ちょっと汗ばむくらいゲームを楽しみました。

ボッチャはパラリンピックの正式種目にもなっている球技。終わったばかりの冬季オリンピックのカーリングを思わせるゲームで、目標の白い球にどれだけ近い位置に赤と青の皮巻きのボールを投げてどれだけ近づけられるかを競います。支部員の前田辰雄さんの指導でルールを学んだあと早速練習試合をしました。

皮巻きのボールは、弾むようで弾まないとか、転がり方も投げ方で決まるので、目標に近づけるのに、皆さん苦労していました。相手のボールを場外に押し出すというプレイもあるのですが、これはなかなか成功しませんでした。

モルックはフィンランド発祥のゲームでモルック（木製の棒）を投げて、スキttl（木製のピン）を倒した本数かスキttlに書かれている数字で得点を挙げる競技です。支部相談役の伊王野耕二さんの指導でゲームをしました。

当初モルックは「モルックバンパー」というシリコン製の衝撃吸収カバーを付けて、武道場でプレイするつもりでしたが、当日が好天に恵まれ、外も暖かったので、前庭で楽しみました。

東京都支部は、これまで例会と言えば「懇親会」（飲み会）だけでしたが、「体を動かすレクリエーション」も出来るんですね。間もなく父親になるという光山拓実さんは「父として子どもに教えられるゲームがあったら良いなと思って」と参加の動機を話しました。

東京都支部は、今後もイベントや茶話会を開催したいと考えていて、多くの支部員の参加を呼び掛けています。

参加者は次の通り（敬称略、五十音順）。伊王野耕二、池谷紀夫、光山拓実、菅野茂樹、須藤晃、前田辰雄、森田康司、横塚征一郎。



## チリの首都サンチャゴ近郊の 国立公園を訪ねて ～都市住民に森林浴～

近藤 豊 (林学S58)

農工通信  
寄稿ゆき

2021年4月から立川にある東京都多摩環境事務所に勤務している。公害防止、廃棄物対策、自然環境の保全の業務を行っているが、都民に一番関連がある業務は、高尾国立公園をはじめとする自然公園管理であろう。快適に利用できるトイレや、誰もが楽しく学べる展示の工夫に悩まされている。これらの解決の参考とするため、2025年12月、南米チリの国立公園を訪れる機会を得た。10年前、チリ国立植物園と都立神代植物園が技術協力協定を締結した縁を活用した。

チリの国立公園を管轄する農業省によると、自然の多様性と独自の景観を保全するため、国立公園、自然保護区、天然記念物が指定されており、それらの面積は国土面積の4分の1に及ぶ。管理主体は、国有林公社(職員は国家公務員)、原住民による管理団体(イースター島の例)、財団や大学等である。

サンチャゴ周辺は地中海性気候で、12月から2月の夏季に乾燥するため、山火事防止に一番注意している。サンチャゴ市内から南東へ65kmのリオ・クラリージョ国立公園ではこの時期、バーベキューを禁止している。入場料が大切な収入のため、バーベキュー禁止は収入減となる。市街地から訪れる利用者に森林内の瞑想、目を閉じて花や葉、種子に触れる癒し体験を提供している。日本から取り入れたこの取組をそのまま「シンリンヨク(森林浴)」と呼んでいた。

トイレの整備やし尿の処理方法は、管理主体が立地条件や収入等に応じて決めるとのこと。リオ・クラリージョでは、簡易な汲取式便所を管理道沿いに設置して、バキュームカーを横付けして処理する。

約100km<sup>2</sup>に及ぶ同国立公園の年間予算は、わずか1,500万円程度。園内8か所の自然散策路の手すり、展望台、ブロック舗装は、17人のレンジャー手作り。樹木の説明板には樹形、葉の形、人の大きさとの比較等、



リオ・クラリージョ国立公園

視覚障がい者がさわって理解できる工夫がしてある。

このようにして得られたチリでの知見を、今後の東京都の自然公園や保全地域の管理に活用していきたい。

## 65歳 独学で 「一級建築士」合格

西郷 昌高 (機械S59)

農工通信  
寄稿ゆき

54歳になった年の瀬に、会社都合で無職になったとき「独力で食える力がないとヤバイ」と心底思った。幸い、電機メーカーのエンジニアだった時にとっていた資格「エネルギー管理士」で、職を得ることができたものの、全く違う業界への転職だった。

はじめは、建築行政の説明会に出席してもさっぱりわからず、愕然としていたが、それでも2年、3年と続けていくと勘所を得て、そこに全館空調の設計業務が加わったことで、建築への関心が高まっていった。

建築系の高校や専門学校生には「二級建築士」、建築系の大学生には「一級建築士」の受験資格が与えられるが、本校には建築学科がない。機械工学専攻の私が建築士を目指すには、①実務経験7年を経て「二級建築士」受験資格を得て、合格してから「一級建築士」を狙うか、②「建築設備士」を取得して、4年の実務経験を経て一級建築士を狙うか、の2つしかなく、部外者に門戸の狭い資格なのだ。

それでも60歳になる頃には実務経験も6年となり、「二級建築士」受験の射程内に入ったので、お金もかけず独学で受験してみようと決めた。

一次試験は、過去問をひたすら解けば何とかなるが、二次試験の課題製図は、独学では難しいと言われていた。それでも機械製図の経験をもとにYouTubeで建築作図法と法規適用を学び、R4年度の一次試験・二次試験共に一発でクリアすることができた。

建築物は「建築基準法」が厳格に適用されるため、設計する建築士は単なる資格ではなく登録免許制で、住宅規模の設計を行う二級建築士と、規模制限のない一級建築士に分かれている。その分一級は適用する構造・耐震・防火・法制限なども細かく難しい。

初回R5年度の受験は全く及ばず、勉強法を変えて時間を増やし、R6年度は一次試験をクリアできた。二次試験は、課題条件から建築プランの作成・設計・作図と技術要点記載を6時間半で仕上げるもので、気力と体力の戦いでもある。明らかな技術不足で敗退し、翌R7はオンラインの製図講座を受けて図面を描き込み、これをクリアして「一級建築士」試験に合格した。

結果は合格率11%。合格者平均年齢29歳、40歳以上が全体の1割しかいない中で65歳は最高齢だった。かつて本学受験の時に建築への道は諦めていたが、45年という随分と長い時間をかけて1つの目標が達成で

きた。今年は、建築と機械をつなぐ「建築設備士」を受験しようと考えている。

## バンコクの隠れた名所!? 国立土壤博物館 (Soil Museum)

真鍋 和裕 (植防S63)

農工通信  
寄稿ゆき

筆者はJICA（国際協力機構）の事業などでタイ国に度々訪れる機会があった。その中でバンコクにある土壤博物館に立ち寄ったので、その紹介を兼ねてレポートしたい。

### 1. タイの土を“見る・触る・比べる”

バンコク市内のカセサート大学にも近い沿道に、タイ農業・協同組合省土地開発局（LDD）の「土壤博物館」はある。博物館に入るとまず目に入るのが、タイの各地から採取されたモノリス（土壌断面）の色鮮やかなギャラリーである。赤黄色の風化土、灰色の低地土、有機質に富む暗色表土など、色と質感、層位の違いが一目でわかる標本がずらりと並ぶ。表層から下層へと変化する色帯や構造は、排水性や根の侵入性、塩類の集積などが解説され土の性質や土地利用の様子が直感的に伝わってくる。

### 2. 62種類に分けられた土壌群

タイの土壌分類は、全国に数百ある土壌を「62の土壌群」に分けて整理されてきた。性質の近い系列をグループ化し、土地利用計画や普及事業、作付け・施肥設計に活用できる形としている点は、土地開発・利用部門ならではの特徴である。

### 3. タイ国土壌の課題と王室プロジェクト

もう一つの見どころは「問題のある土壌」のコーナーである。代表例として、タイ東北部に広がる塩類土壌、沿岸低地に多く見られる酸性硫酸塩土壌、そして耕起や踏圧によって形成された硬盤土壌が挙げられる。タイ王室は農業、特に前国王のラマ9世は土壌に造詣が深く、頻繁に地方へと足を運び、土壌保全、農地の改良にとっても熱心であった。酸性硫酸塩土壌を意図的に酸化・酸性化させ、その後の改良手順を段階的に検証する「グレーン・ディン」や、イネ科で深根性のベチパーの特性を利用した実践的な土壌保全技術などが模型で示されている。ベチパーは“土壌環境保全”に留まらず、ハーブとしても利用され農家の生計や地域社会の安定までを視野に入れた試みであり、その展示から伝わってくる。

### 4. バンコクの隠れた名所!?・・・タイの大都市で“土”と語り合う

バンコク観光というと寺院やマーケットを思い浮かべますが、是非ともこの土壤博物館を訪れてほしいものです。その中で足元の大地を知り、この国の農業や環境、そしてタイの風景を眺めてみるのが私たち農業関係者の醍醐味になるかもしれません。

### 5. アクセスと基本情報

最寄り駅：BTSスクンビット線セナーニコム（Sena Nikhom）駅（N12）徒歩1分。

住所：2003/61 Phahonyothin Rd., Lat Yao, Chatuchak, Bangkok 10900。

開館：月～金の9:00～16:00、入館無料。解説者の手配も可能（要申込）

Soil Museum ホームページ

<https://www.ddd.go.th/museum/eng.html>



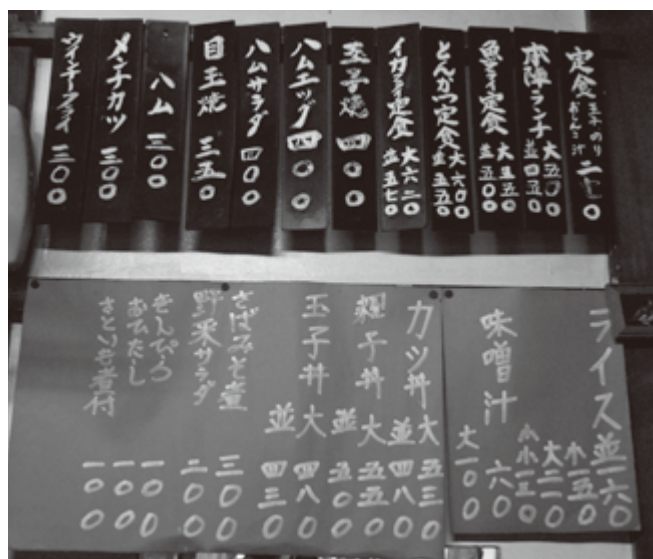
土壤博物館の室内入口にて（筆者）

## 本陣の思い出

岡本 隆宏 (環保H3)

農工通信  
寄稿ゆき

農学部正門を出て住宅街に分け入ったところに「本陣」という農工大生向けの定食屋があったことを覚えているのは、もう40代以上の方になってしまうだろうか。お父さん、お姉さん、弟さんでやっていたお店で、農工大生でけっこう繁盛していた。店内に入ると、中央にテーブルがあり、壁はカウンター席になっていた。提灯のほか、旅行土産らしきものも飾られていた。私が入学した頃は学食はまだ夕食営業はやっていなかったもので、お安く夕食が食べられる数少ない選択肢のひとつだった。お店としては、昼食はランチメニューで安く上げても、夕食はレギュラーメニューでお高めに食べてもらいたかったのだろうが、赤貧洗うが如し農工大生のこと、夜でも日替わりランチの「本陣ランチ」を頼む学生が多かったように思う。主菜は、月曜日はメンチカツ、火曜日は鯖の味噌煮、水曜日はタマネギ煮込み、（木曜日は忘れました。）金曜日はウインナーフライ、土曜日は角ハムだった。私がメンチカツを食



べたのは本陣が人生初で、それ以来メンチカツは私の好物になった。これにご飯と味噌汁、大根と大根葉の一夜漬けが付いて、350円だった。私の家計では朝食100円、昼食200円、夕食300円を目安にしていたので、お安いとはいえ本陣で食べる夕食は私にはちょっとした贅沢だった。とんかつ定食やカツ丼は、仕送りがあったときぐらいしか食べられない高級食だった。一番高いメニューはオムレツ定食だったと記憶しているが、食べている人を見たことがないので、どんなものだったのか謎のままである。一度くらいはチャレンジしておけばよかったかもしれない。逆に一番安いメニューとして「定食」があり、これはご飯、味噌汁、卵、一夜漬けだけのシンプルなもの、お値段は200円だったように思う。営業終了時間は20時だったか、21時だったか。終わりがけに行くとお姉さんの長話にお付き合いするのも定番になっていた。お姉さんの話がなかなか終わらないので、お父さんが「そろそろその位で」と苦笑いしていたのも良い思い出である。

私の卒業後平成10年頃に廃業されたようだが、平成18年に同窓会があるついでで見に行ったところ、2階の窓からお姉さんが顔を出し、「あら、あなた見たことあるわね。」と店内に入れてくれた。懐かしいメニューがき（お品書き）のある店内は、時間が止まっているかのように思えた。

## 農工大での学びと今 ～土壌から始まり 地球環境保全からICTまで～

光山 拓実（生産H25）

農工通信  
寄稿仲き

こんにちは。私は2013年に生物生産学科の土壌学研究室を卒業し、環境省の技術系総合職として働いて13年目となります光山（こうやま）です。この春に第一子が生まれることになり、これまでの人生を振り返り、農工大での貴重な経験が今に生きていることについて、

お世話になった皆様への感謝を込めて簡単に記載させていただきます。

大学時代は震災直後であり、鈴木創三先生のもとで「土壌とセシウムイオンの吸着」に取り組みました。その後は、福島での除染、循環型社会、気候変動対策、ネイチャーポジティブといった環境分野に幅広く従事しつつ、出向を通じてBeyond 5Gや経済安全保障等にも関わらせていただきました。一見、農業や土壌とは脈絡のない「点」が散在するキャリアパスに見えるかもしれませんが。しかし振り返ってみると、その根底には、母校で培った「システムとして世界を捉える視点」が確実に生かされていると感じています。

実は、別の大学に1年在籍してから農工大に移った経験があり、痛感するのは農工大での学びは、農業という産業活動を多面的かつ「全体感」を持って学べたことです。幅広い理科的な素養に加え、産業史や市場ニーズの分析、経営学等の社会科学、そして実習を通じた身体的学び、農家の方々との交流。まさに「百姓（百の仕事）」のごとく、多様な分野の多様な人と交流しながら多角的な見方を学べた貴重な4年間でした。

現在の職である環境問題も様々な分野と関わるアジェンダであり、母校での学びのおかげで、なんとかこれまでやってこれたと思っています。

そして、次の大きな仕事は「育児」です。子供の様子をしっかりと観察して向き合っていきたいですし、農業のように「何かを育む活動」を一緒にしたり、自然豊かな府中キャンパスのお散歩もしたいと今から楽しみです。

最後に、今の私があるのは、大学時代にお世話になった皆様のおかげです。改めて深く御礼申し上げます。



（※）ネイチャーポジティブに関するキャラクター だいだらポジー（宣伝）



## TUAT Formula ペダル・ブレーキ班

富岡 優太（機械システム工学科3年）

私たちTUAT Formulaは、学生のF1ともいわれる「学生フォーミュラ日本大会」に出場するため、レーシングカーの設計・製作・走行テストまでを学生で行う機械システム工学科公認のものづくりサークルです。F1と同様にレギュレーションが存在し、それに適合したマシンを自分たちの手で開発しています。毎年9月頃に大会があるため、12月までに設計、春休み中にマシン製作、残りの期間で試走と改良を重ねて大会に臨む、というサイクルで活動しています。

学生フォーミュラの特徴は、作って走ってタイムを競うだけでなく、静的審査という形式で、実際の製造業で行われている開発の流れを踏めているかも評価されます。

例えばデザイン審査では、どのような根拠や経緯で部品・マシンの設計や改良を行い、その効果はどのようであったかを、PDCAサイクルやVプロセスに沿って審査員に説明します。プレゼン審査では、自分たちのマシンを売り込む仮定のもと、事業計画案を審査員に発表します。コスト審査では車両の安さと加工プロセスの正確さを競います。

マシンの面倒を見ながらこれらの準備の行うのは大変ですが、総合的な開発力を鍛えられると考えており、そこが他のものづくりサークルとの違いとも考えています。

ここからはTUAT Formulaでの私の体験を紹介させていただきます。

設計では、アイデアをCADに反映させて、強度解析で評価し、ダメだったら修正…を繰り返して部品を作っていきます。私が担当しているペダルボックスは小さな部品が密集しており、どこかを変えると別の部分にも影響が連鎖することが多いです。そのうえ強度・重量・剛性・製作性・加工費などの条件も最適化する必要があります。このため頭の中でぐるぐると思考が巡り続けます。楽しいですが、つらいところでもあります。

製作では、手順を1つ間違えるだけで、事故や怪我に繋がったり、狙った形状から外れてしまったりするので気が抜けません。ですが金属が削られて少しずつ形になっていく様子は、独特の面白さと楽しさがあります。

そして試走や大会で、自分の担当した部品がマシンの一部として機能しながら走る姿を見ると、ちゃんと走ってくれてる!と安堵感と興奮が同時にやってきます。

この活動を通じて、ものづくりの楽しさと難しさを日々実感しています。今後ともTUAT Formulaを見守っていただければ幸いです。



土づくりのため、大鎌で刈ったカヤを運び  
畑全体に敷き詰める。(山梨市牧丘町)



TUAT 援農隊は2025年4月に発足した援農ボランティア団体です。「＜農＞を元気に!」、「＜農＞で元気に!」の2つのミッションをもち活動しています。1つ目のミッション「＜農＞を元気に!」は、日本の農業の持続可能性を高める一助になる、を目指して活動しています。私たちは大学の講義を通じて、少子高齢化をはじめとする様々な理由から、日本の生産を担ってきた中山間農家の営農が厳しくなっている現状を知りました。また、日本の食料自給率は40%をきっていますが、安定した生産のために必要な慣行農業も、過剰な施肥や農薬の使用により、地球環境や土壌の生態系へ影響を及ぼすことがあると知りました。私たちができることとして、山梨県山梨市にある中山間の有機農場で、月に1~2回程度お手伝いをしています。2月には山のカヤを刈り、畑に漉き込み、米ぬかを蒔いて春の種まきに向けて土づくりをします。3月にはじゃがいもや小松菜、こかぶなどの種を蒔き、それが育ったら収穫のお手伝いをします。実際に畑に立ち、現場で起きていることを体感することで、持続可能な農業について学びを深めています。2つ目のミッション「＜農＞で元気に!」は、生産だけでなく農が持つ機能に注目して、人々を元気にしたいという思いで活動しています。令和6年能登半島地震は記憶に新しいですが、同年9月に起きた豪雨災害も重なり、その復興は道半ばです。さらに心配なのは、高齢者の閉じこもりが深刻になっていることです。「以前は家庭菜園を含め、畑仕事をよくしていたが、被災してできなくなり、やることなく家にいる。」という方がいます。このような状況に対し、被災した高齢者の閉じこもり予防を目的として、地域の人みんなが使えるコミュニティ畑を作る活動をしています。2025年5月には、石川県七尾市の災害民間ボランティアセンターと協働して、住民の皆さんと話し合いながら、竹や木を使ったプランター畑を作りました。8月には種を蒔きました。残念ながら収穫には至りませんでしたが、9月、11月、12月、2月と茶話会を実施し、住民の皆さんと話し合いながら、コミュニティ畑の実現に向けて試行錯誤を続けています。そのような活動の中で、趣旨に共感してくださった住民さんから、「私の畑を使って」と温かい言葉もいただき、活動の幅が広がってきています。これからも活動を通して＜農＞についての学びを深めていきたいと思っています。

## TUAT 援農隊始動!

不破 美幸 (農学部地域生態システム学科3年・TUAT 援農隊代表)



## 【母校の躍進】QS 分野別世界大学ランキング2026 農学・森林科学分野において「国内第1位・世界第41位」の快挙を達成

同窓生の皆様に、母校のたゆまぬ発展を象徴する大変喜ばしいニュースをお届けいたします。2026年4月、英国の国際的な大学評価機関クアクアレリ・シモンズ (QS) より発表された「分野別世界大学ランキング2026」において、本学の農学・森林科学 (Agriculture and Forestry) 分野が、世界第41位、そして国内第1位 (アジア第6位) という極めて高い評価を獲得いたしました。

特筆すべきは、昨年の「世界第49位・国内第3位」という結果をさらに上回り、着実に世界のトップランナーとしての地位を固めている点です。評価項目の中でも、世界の研究者からの評価を示す「学術評判 (Academic Reputation)」においては国内で突出したスコアを記録しており、本学の研究力が国際的な学術コミュニティにおいて揺るがない信頼を得ていることが証明されました。

この躍進の背景には、本学が長年培ってきた教育・研究の基盤に加え、近年の「農工融合」による独創的なプロジェクトの推進や、産業界・他研究機関との強固な連携、そして活発な国際共同研究といった多面的な改革の成果があります。また、研究成果の積極的な世界発信や留学生の受け入れ拡大など、グローバル化への真摯な取り組みが、今回の総合的な高評価へと繋がりました。

母校が名実ともに「世界に冠たる研究大学」として認められたことは、専門分野を問わず、全ての同窓生にとって大きな矜持となるものです。本学は今後も、国際社会で活躍できる卓越した人材の育成と、持続可能な社会の実現に貢献する研究に邁進してまいります。同窓生の皆様におかれましては、さらなる高みを目指す母校の挑戦に、引き続き温かいご支援とご声援を賜りますようお願い申し上げます。



掲

示

板



## 交流ラウンジは「会員がつくる」 プラットフォームへ！ 皆様からの寄稿を募集しています

これまで事務局よりお届けしてきたホームページ内の「交流ラウンジ」ですが、今後は会員の皆様からの「寄稿」を中心に、より双方向な情報交換の場としてリニューアルいたします。

「こんな活動をしている」「クラス会を開催する」など、皆様の日常や企画がそのまま記事になります。農工大コミュニティと一緒に盛り上げていきませんか？

### 寄稿・活用いただきたいトピック

- **近況報告 (かがやく同窓生)**：ご自身の仕事や趣味、地域での活動など。自薦・他薦は問いません。
- **イベント案内**：展示会、演奏会、セミナーなど、同窓生に知らせたい情報を広く募集します。
- **先輩へのエール**：在校生に伝えたい経験談や、支援のメッセージ。

【投稿は簡単です！】テキストと数枚のお写真を事務局へお送りいただくだけで、事務局スタッフが「交流ラウンジ」に掲載のお手伝いをいたします。皆様の「声」をお待ちしております。

## 第5回代議員選挙および 次期会長候補者の公募に ついて

総会代議員の任期満了に伴う「第5回代議員選挙」につきましては、すでに同窓会ホームページにて公示した通り、現在、各部会および支部へ候補者の推薦依頼を行っております。10月下旬までに候補者を確定し、立候補者数が定数を超えない場合は、会則に基づき候補者全員を当選といたします。なお、定数を超えた場合は投票による選挙を実施いたします。

あわせて、次期会長候補者の公募も実施しております。こちらは正会員5名以上の推薦が必要となります。11月上旬までに理事会にて候補者を確定 (立候補がない場合は理事会にて選出・調整) し、次回の定期総会に諮る予定です。

詳細はホームページの公示内容をご確認ください。



慶 事 お祝い申し上げます

- |             |                     |       |
|-------------|---------------------|-------|
| 令和8年春の叙勲    | 田中 隆 (機械S55)        | 旭日単光章 |
| 令和7年秋の叙勲・褒章 | 百鬼 史訓 (名誉教授)        | 瑞宝中綬章 |
|             | 川田 明宏 (農工S51)       | 瑞宝小綬章 |
|             | 岩田 勝男 (農工S53)       | 瑞宝小綬章 |
|             | 有江 力 (東京農工大学理事・副学長) | 紫綬褒章  |

弔 事 ご逝去を悼み、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます

- |                           |                        |
|---------------------------|------------------------|
| 畑中 孝晴 (農学S31) (同窓会名誉会長)   | 安部 真平 (繊維S30)          |
| 門屋 一臣 (農学S33) (元愛媛県支部長)   | 長谷川 鶴吉 (繊維S31)         |
| 早川 博文 (農学S36)             | 草野 浩一 (織工S32)          |
| 佐藤 鉄郎 (農学S40)             | 藤木 繁雄 (織工S32)          |
| 善林 六朗 (農学S40)             | 續葛 修一 (織工S33)          |
| 清水 修 (農学S53)              | 壁矢 久良 (織工S35) (元副会長)   |
| 多喜 淳一 (農学S54)             | 伊藤 寛郎 (織工S36)          |
| 岩永 秀樹 (農学院S50)            | 高橋 光雄 (織工S36)          |
| 高滝 涓治 (農甲S23)             | 武田 迪昭 (織工S36)          |
| 藤嶋 勇 (農改S40)              | 成田 茂善 (織工S37)          |
| 高浦 慶二 (農改S45)             | 飯塚 英夫 (織工S42)          |
| 中島 孝 (養蚕S25)              | 松房 利憲 (織工S49)          |
| 西川 卓 (蚕実S23)              | 半田 清久 (化工S48)          |
| 増田 弘 (織農S23)              | 中原 昭二郎 (織化S24)         |
| 斎藤 武司 (植防S48)             | 井草 義夫 (織化S26)          |
| 小畑 正行 (農化S24)             | 濱 次雄 (織化S26)           |
| 福島 利器雄 (農化S33)            | 石田 文治 (織化S32)          |
| 坂田 秀俊 (農化S57／農化院S59)      | 島田 昭義 (織化S35)          |
| 大竹 典和 (農工S47)             | 高瀬 明雄 (工化S41)          |
| 宮下 久哉 (林産H5／林産院H7／生工博H12) | 根本 裕之 (工化S53)          |
| 水野 泰嗣 (林産S44／林産院S46)      | 岡村 功 (機械S38)           |
| 森本 健 (林産S49／林産院S51)       | 石井 貴雅 (機械S46)          |
| 竹村 純夫 (林学S23)             | 小林 正一 (機械S50)          |
| 村上 輝 (林学S34)              | 瀧川 浩良 (生機S60)          |
| 千野 博 (林学S47)              | 野村 一 (電気H4／電情院H6)      |
| 藤田 章彦 (林学S52)             | 森 正機 (電気S41)           |
| 細野 重利 (獣医S29)             | 吉田 太一 (電気S56)          |
| 水口 衛 (獣医S29)              | 井上 克司 (電気S60／電気院S62)   |
| 野嶋 重吉 (獣医S31)             | 相場 博男 (電子S51)          |
| 竹内 健児 (獣医S40)             | 亀井 稔人 (電子S58)          |
| 山家 又祐 (獣医院S55)            | 野中 正樹 (応物S46)          |
| 粕谷 晋示 (製糸S25)             | 竹田 直行 (物生H8／物生院H10)    |
| 阿久津 眞一 (製糸S26)            | 竹田 浩伸 (応化博H31)         |
| 塩原 武 (製糸S26)              | 高原 由美 (白戸) (電情H9)      |
| 宮本 哲雄 (製糸S51／製糸院S53)      | 鈴木 宏幸 (電電子H16／電電子院H18) |
| 阿部 壮一郎 (糸専S29)            |                        |
| 大槻 フジ (石森) (教婦S24)        |                        |

# 東和ブルーベリー研究農園

<https://towa-blueberry.jp/>

冷凍果実  
ほぼ周年販売

新鮮果実・摘み取り園  
7月から9月まで



ブルーベリージャム 周年販売

農工大名誉教授の横山です。2019年に退職し、福島県二本松市の東和地区に移り住み、ブルーベリー園を開設しました。ブルーベリーの発祥地である農工大の教授陣から学び、大きくて美味しい果実を生産していますので、ぜひお試しください。電話やメールでのお問い合わせもお待ちしております。(1980年3月に農学研究科を修了)

〒964-0202 福島県二本松市針道字町1番地 東和ブルーベリー研究農園

電話：0243-24-7781 メール：tadashi@cc.tuat.ac.jp

オンライン：「食べチョク」、「ポケットマルシェ」、「Yahooショッピング」で東和ブルーベリー研究農園と検索、二本松市ふるさと納税サイト、農工大つながるプロジェクト、弊園のHP等  
直売：郡山市：ベレッシュ、アグリア、愛情館、二本松市：道の駅ふくしま東和、道の駅安達等

Jforest 森林組合おおいがわ

自然の価値を活かす森林づくりを進めます

## 従業員募集



未経験OK



教育制度充実



装備品支給

人と交流することが好きなら  
**林業技術者**

森林経営計画の作成  
施業提案・現場管理

募集職種

業務内容

身体を動かすことが好きなら  
**林業技能者**

造林・間伐などの森林整備  
林業機械での木材生産



詳しくはWebサイトで

森林組合おおいがわ

で検索

問合せ・応募 受付 | 平日8:15~17:00



0547-30-2111



soumu@oigawa-jforest.jp

静岡県島田市身成162番地

森林組合おおいがわ

代表理事組合長 杉山嘉英(S.52林学科卒)

“東京の地酒”を醸す。

# 國府鶴

合名会社 野口酒造店

令和6年春より、東京都府中市で  
40年ぶりに酒造りを復活いたしました。



公式サイト



Instagram



X



こうづる

代表銘柄「國府鶴」

東京農工大学育種米「さくら福姫」を  
用いた日本酒造りを通じて、  
武蔵日本酒テロワールを推進しています。



うまいビールで食卓をハッピーに!  
**BAEREN**

岩手県民人気NO.1クラフトビール!

つなぐビールで、  
ちょっと良い未来をつなげたい



**株式会社ベアレン醸造所**

〒020-0061 岩手県盛岡市北山1丁目3-31

代表取締役社長 鳥田洋一（1990年 蚕糸生物学科卒）



**CATERING Service**

出張料理

パーティ・御宴会は!!  
サンブリアで!!

お集まりにふさわしい雰囲気演出致します。

**IN VINO VERITAS**  
SANTGRIA

〒183-0027 府中市本町 1-1-7  
TEL : 042-368-6368  
H P : <https://santgria.jp>



「本気」で結婚を目指す

東京農工大学同窓会会員の皆さまの

「成婚」をサポートいたします。

To achieve your happy marriage.

農工大  
コース

通常登録料  
~~33,000円(税込)~~

▶▶ 0円

受付時に  
「『農工通信』を見た」と  
お申し付けください。

## 48年の実績で成婚までサポート

株式会社ブライダルは創業以来48年にわたり、大学同窓会員の皆さまをはじめ、たくさんの方々を成婚に導いてきました。少子化が叫ばれる昨今、当相談所は「幸せな結婚を実現する」という面で社会貢献を目指しています。

ブライダルでは、東京農工大学同窓会会員の皆様のために『農工大コース』を設けております。この『農工通信』を見た」とお問い合わせ時に申し付けいただいた方は、通常33,000円の登録料を【無料】にてご入会いただけます。本気で結婚を考えているお相手との出会いを求める方は、ぜひお問い合わせください。

定期的に「親御様無料説明会」を開催中です。

48年に渡るノウハウで  
お子様との会話の秘訣を  
お伝えしています。

HP・フリーコールより  
お気軽にご相談ください。

1978年創業



あなたと未来をつくる  
**Bridal**



0120-415-412

営業時間：平日 10:00～20:00 / 土・日・祝 10:00～18:00  
定休日：月曜日(祝日は除く)・年末年始

東京本社：〒160-0023 東京都新宿区西新宿8丁目4-2 野村不動産西新宿ビル9F 名古屋本社：〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄3-7-13 コスモ栄ビル9F

ブライダル 結婚相談

検索

<https://www.bridal-vip.co.jp/>





# 事務局だより



## 1. 会費納入のお願い

同窓会は、皆さまからの会費により運営されています。  
 本会の維持および活動のため、会費納入にご協力をお願いいたします。

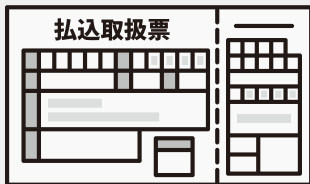
**終身会費：30,000円／70歳以上：10,000円  
 年会費：1,500円**

(※お支払い日が属する年度(4月～翌年3月)分となります)

同封の払込票にて、上記いずれかの金額をお支払いください。  
 会費を納入された方は「正会員」となります。

- 『農工通信』に払込票が同封されていない方は、すでに納入済みです。
- 年会費については、過去にさかのぼっての納入は不要です。
- 本案内は7月下旬時点のデータに基づいておりますため、すでにご入金いただいている場合はご容赦ください。

払込票の発送は年1回。  
 ご協力ください!



## 2. 現住所等、ご登録情報に変更はありますか?

毎年『農工通信』のお届け先が住所不明のケースが多くあり、返送されております。現住所・お名前・勤務先などに変更があった際は、同窓会へのご連絡をお忘れなくお願いいたします。

同窓会ホームページの「会員情報の変更」より随時ご変更いただけます。また、同封の「変更連絡票はがき」でも受け付けております。



## 3. 在学生への就職支援 勤務先情報提供のお願い

同窓会では、在学生の就職活動支援の一環として、会員の勤務先および氏名を在学生に提供しています。情報提供をご希望されない場合は、同窓会ホームページの「会員情報の変更」等からその旨をお知らせください。ご連絡がない場合は、ご承諾いただいたものとして、就職情報を在学生に提供させていただきます。

※過去に情報提供の可否についてご連絡いただいております、変更のない場合は再度のご連絡は不要です。

## 4. 会員情報の提供について

2010年5月をもって『同窓会会員名簿』の発行を廃止したことに伴い、現在は部会・支部・クラス会等からのご依頼により、従来の名簿に代わる情報提供サービスを行っております。

詳細は、同窓会ホームページ「入会・会員情報」内の「会員情報提供について」をご覧ください。

本会が保有する会員の個人情報につきましては、ご本人のご意向に沿って厳重に管理・運用し、個人情報の保護に万全を期しております。



## 5. 『農工通信』寄稿 随時募集!

『農工通信』では、みなさまからの寄稿を随時募集しています。  
 内容は自由です(例:随想、近況報告、研究紹介など)。あわせて、写真・絵・イラストなども歓迎いたします。

①一般寄稿:800字程度(写真1枚)

2月末までに到着した原稿は、次号(9月発行)に掲載予定です。

②クラス会報告:300字程度(写真1枚)

同窓会ホームページ「クラス会だより」に掲載後、『農工通信』に掲載いたします。

③画像作品(写真・絵画など):表紙や挿絵として使用。

※採用の際はご連絡いたします。

●送付先(メール):tushin@tuat-dousoukai.jp(同窓会事務局「農工通信」宛)

●郵送の場合:原稿や写真等の返却はいたしかねますので、あらかじめご了承ください。

## 編集後記 広報・情報部長 村上 尚(応化H12)

本号では、中村新学長のもとでスタートした大学の新体制や、第8回定時総会の報告をはじめ、全国で活発に開催された部会・支部総会やクラス会の様子を多数掲載いたしました。また、QS世界大学ランキングの農学・森林科学分野において、母校が「国内第1位・世界第41位」という快挙を達成した誇らしいニュースもお届けしております。紙面を通じて、世代を超えて紡がれる同窓生の強いつながりと、世界へ羽ばたく大学の勢いを感じいただければ幸いです。今後とも皆さまの温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

Editor's note

## 農工通信 第107号

発行日 令和8年(2026年)9月1日

発行所 一般社団法人 東京農工大学同窓会

連絡先 〒183-8538 東京都府中市晴見町3-8-1 (一社)東京農工大学同窓会事務局

TEL 042 (364) 3328 FAX 042 (335) 3500

e-mail info@tuat-dousoukai.jp URL https://tuat-dousoukai.org/

振替口座 00120-8-265877 番 加入者名 一般社団法人 東京農工大学同窓会

印刷所 株式会社キタジマ 〒130-0023 東京都墨田区立川2-11-7

お中元、お歳暮、贈り物に最適  
部会、支部会、同窓会でも  
ぜひご賞味下さい。



本学では、農学部附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター(FSセンター)で栽培した原料(米・芋・麦)をもとに製造した農工大ブランドの本格焼酎「賞典禄(しょうてんろく)」を販売しています。

#### 酒 類 販 売 管 理 者 標 識

|               |                                               |
|---------------|-----------------------------------------------|
| 販売場の名称及び所在地   | 農学部附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター<br>東京都府中市幸町3-5-8 |
| 酒類販売管理者の氏名    | 杉 村 智 史                                       |
| 酒類販売管理研修受講年月日 | 令和8年7月15日                                     |
| 次回研修の受講期限     | 令和11年7月14日                                    |
| 研 修 実 施 団 体 名 | 一般社団法人<br>日本ボランティアチェーン協会                      |



米焼酎



芋焼酎



麦焼酎



長期貯蔵酒(米)

## 賞典禄 FAX 注文票

以下のとおり注文します。

東京農工大学 FS センター 宛 FAX : 042-367-5801

#### 【ご注文内容】

|                                           |     |                          |   |
|-------------------------------------------|-----|--------------------------|---|
| 長期貯蔵酒 米焼酎 (2,300 円) 40 度 720ml            | 本   | 米焼酎 (1,800 円) 25 度 720ml | 本 |
| 焼酎 米・芋・麦 3 種セット (5,000 円)<br>25 度 720ml×3 | セット | 芋焼酎 (1,800 円) 25 度 720ml | 本 |
|                                           |     | 麦焼酎 (1,800 円) 25 度 720ml | 本 |
| 合計注文金額                                    |     |                          | 円 |

#### 【ご注文者様情報】

|         |       |        |     |
|---------|-------|--------|-----|
| お 名 前   |       | フリガナ   |     |
| 住 所     | 〒     |        |     |
| 電 話 番 号 |       | FAX 番号 |     |
| 生 年 月 日 | T.S.H | 年      | 月 日 |

※年齢確認をさせていただく場合がございますのでご了承願います。

- 【ご注意】 ※1 お支払いは代金引換またはクレジットカードになります。詳しくは下記 URL をご覧下さい。  
ただし、FAX でご注文された場合のお支払いは、代金引換のみとなりますので、ご注文者様以外への配送は致しかねます。  
※2 ご注文いただいた上記金額の他に、送料 (6,000 円以上は無料) 及び代金引換手数料 (代金引換額に応じた所定の金額) が必要になりますので、予めご了承願います。  
※3 本注文票により収集された個人情報、賞典禄の販売以外の目的には使用いたしません。

ネットショップ：農工大FSセンター夢市場

<https://noukoudai.com/>

URLが新しくなりました。



問い合わせ先

農学部附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター事務局

TEL042-367-5811

## 電子メールアドレスご登録のお願い

同窓会では、会員の皆様への迅速な情報伝達のため、メールアドレスの登録をお願いしております。ご登録いただいたメールアドレスは、同窓会からのご連絡のほか、ご希望に応じて部会（卒業学科・専攻単位）や支部（ご登録住所の都道府県単位）からのご案内に限定して利用させていただきますので、ご安心ください。

なお、部会・支部からのご案内送付の可否は、ご自身で選択いただけます。また、勤務先のアドレスをご登録の場合は、転職やご定年等で変更が生じた際もお知らせください。

特に支部からのご案内は現住所に基づいて行われますので、メールアドレスと併せて最新のご住所をご登録いただけますようお願い申し上げます。

会員の皆様のご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 会員情報の変更はこちらより

HP「入会・会員情報」より随時受付！

毎年お送りしている『農工通信』が、住所不明により多数返送されています。現住所やお名前、勤務先などに変更がありました際は、同窓会へのご連絡をお忘れなくお願いいたします。



## この春大学を卒業・修了された皆様

ご卒業おめでとうございます！

学部を卒業されると（修士・博士課程から入学された方は修了されると）、自動的に同窓会の会員となります。これまで、保護様が賛助会費をお納めくださっていたご家庭には、会報を保護者様宛にお送りしておりましたが、今号からは卒業生の皆様ご本人宛にお届けいたします。ご卒業後、お引越しなどで住所が変わられた方は、同窓会ウェブサイトから会員情報の変更をお願いいたします。

## 在学生への支援について

同窓会は、会員の皆様からの同窓会費・賛助会費・ご寄付を基に、準会員である在学生の未来を多方面から支援しています。就職支援では、キャリア・アドバイザー派遣や合同企業説明会への協力を実施。学術活動では、学会発表・入賞祝いや論文誌発表援助、優秀卒業論文への副賞贈呈を通じて、学生の挑戦と成果を奨励します。学園祭や課外活動への援助、卒業証書カバーの贈呈も、学生生活を豊かにする活動の一環です。創基150周年を記念した学習・生活環境向上のための資金援助も、会員の皆様の温かいご支援によるものです。同窓会は、皆様の会費を大切に活用し、在学生に対しても成長と活躍を力強く後押しします。

## 東京農工大学基金について

東京農工大学基金は在学生への理工系人材の育成強化、教育研究環境の整備の充実、修学に困難がある学生の支援および研究活動等を支援することを目的に設立された大学基金です。

物価高騰など、学生を取り巻く環境が変化する中で、基金は学生の学びや研究を支えるための取り組みを行っています。詳細については、同封のパンフレットおよび基金WEBサイトを参照下さい。



東京農工大学基金

検索

<https://kikin.tuat.ac.jp/>